

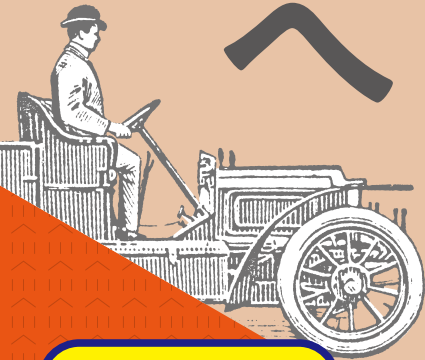
# 歴史



# 総 合

## 近代から 現代へ

岸本美緒 / 鈴木淳



令和4年度用  
(2022年度用)

山川出版社  
内容解説資料

この資料は、  
令和4年度用高等学校教科書の  
内容解説資料として  
一般社団法人教科書協会  
「教科書発行者行動規範」に  
則っております。

ダイジェスト版

山川出版社

# 歴史総合を学ぶにあたって

これまでみなさんの多くは、小学校・中学校で、おもに古代から現代にいたる日本の歴史を学んできたであろう。それに対し、これからみなさんが学ぶ「歴史総合」という科目には、いくつかの特徴がある。その1つは、日本史と世界史を関連づけ、世界史のなかで日本史をとらえようとする点である。第2に、古代からの通史でなく、おもに近代・現代を扱うという点である。第3に、現代に生きる私たちの社会のあり方や直面する課題について考えるという観点から、歴史をみようとする点である。

これらの特徴は、たがいに結びついている。現代の観点から歴史をみるとき、古い時代に比べ、より近い時代の歴史のほうが現代とより直接のかかわりをもつことは当然であるが、現代に近い時代というのは、古代に比べ、日本と世界のつながりが強くなってきた時代であり、現代の私たちのもつ社会的課題は、世界の歴史を知ることなしには、理解できない。このような観点から「歴史総合」では、「近代化と私たち」「国際秩序の変化や大衆化と私たち」「グローバル化と私たち」という3部にわけて、おもに18世紀以降の日本の歴史を、世界の動きと密接に結びつけながら、学び、考えてゆくことをめざす。

歴史を学ぶことは、たんに多くの事実を記憶することではない。ただ地名をたくさん知っていても、その地域の特徴や位置を知らなければ意味がないように、歴史においても、たんなる言葉の暗記はあまり役に立たない。様々な歴史上のできごとを関連づけて、現在の問題はなぜ生まれてきたのか、その道筋をたどることができるような地図を頭のなかにつくることが大切である。時間的・空間的広がりをもつそのような地図がいったんできてくると、新聞やテレビなどから日々入ってくる情報が自然にその地図上に位置づけられ、生き生きした知識として根づくようになる。

むろん、私たちの社会をつくり出してきたのは、近代・現代の歴史のみではない。私たちが当然のものとして使っている文字や暦などは、いつ頃どのようにつくられたのか。今日でも各地の人々の生活を大きく規定している様々な宗教は、どのように生まれてきたのか。これらの問題は、古くからの歴史の流れを知ることによってはじめて明らかになる。「歴史総合」は、そのための入り口という意味ももっているのである。

近世・近代以前の東アジア、南アジア・東南アジア、西アジア、ヨーロッパについて概観を紹介しています。

巻頭資料 諸地域世界の形成 ——— 4

身近な事象の背景に歴史があることや、史資料にもとづいて歴史が叙述されていることを学びます。

歴史の扉① 歴史と私たち  
日本と洋菓子 ——— 12

歴史の扉② 歴史の特質と資料  
台湾における砂糖の生産 ——— 14

年間指導計画例

4月 4 (時間)

5月 6

6月 8

7月 6

9月 7

第I部

# 近代化と私たち

近代化への問い ——— 18

- 1 交通と貿易 / 2 産業と人口 / 3 権利意識と政治参加や国民の義務
- 4 学校教育 / 5 労働と家族 / 6 移民

## 第1章 結びつく世界

- 1 アジア諸地域の繁栄と日本 ——— 24
- 2 ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出 ——— 30

## 第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立

- 1 ヨーロッパ経済の動向と産業革命 ——— 36
- 2 アメリカ独立革命とフランス革命 ——— 39
- 3 19世紀前半のヨーロッパ ——— 43
- 4 19世紀後半のヨーロッパ ——— 47
- 5 19世紀のアメリカ大陸 ——— 52
- 6 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化 ——— 55
- 7 中国の開港と日本の開国 ——— 59

## 第3章 明治維新と日本の立憲体制

- 1 明治維新と諸改革 ——— 66
- 2 明治初期の対外関係 ——— 70
- 3 自由民権運動と立憲体制 ——— 74

## 第4章 帝国主義の展開とアジア

- 1 条約改正と日清戦争 ——— 78
- 2 日本の産業革命と教育の普及 ——— 81
- 3 帝国主義と列強の展開 ——— 85
- 4 世界分割と列強の対立 ——— 88
- 5 日露戦争とその影響 ——— 91

近代化と現代的な諸課題 ——— 97

自由・制限 / 開発・保全



# 国際秩序の変化や 大衆化と私たち

## 国際秩序の変化や大衆化への問い ——— 100

- 1 国際関係の緊密化／2 アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭
- 3 植民地の独立／4 大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化
- 5 生活様式の変化

## 第5章 第一次世界大戦と大衆社会

- 1 第一次世界大戦とロシア革命 ——— 105
- 2 国際平和と安全保障 ——— 112
- 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 ——— 117
- 4 大衆消費社会と市民生活の変容 ——— 122
- 5 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加 ——— 126

## 第6章 経済危機と第二次世界大戦

- 1 世界恐慌の発生と各国の対応 ——— 132
- 2 ファシズムの台頭 ——— 135
- 3 日本の恐慌と満洲事変 ——— 138
- 4 日中戦争と国内外の動き ——— 142
- 5 第二次世界大戦と太平洋戦争 ——— 146

## 第7章 戦後の国際秩序と日本の改革

- 1 新たな国際秩序と冷戦の始まり ——— 152
- 2 アジア諸地域の独立 ——— 155
- 3 占領下の日本と民主化 ——— 160
- 4 占領政策の転換と日本の独立 ——— 164

## 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 ——— 168

対立・協調／平等・格差／統合・分化



年間指導計画例

9月  
7

10月  
7

11月  
8

12月  
6



### 詳しくみてみよう (二次元コード)



文字資料

アメリカ独立宣言(抜粋) 40／人権宣言(抜粋) 41／大日本帝国憲法 77／二十一条の要求 107／日本国憲法 161／サンフランシスコ平和条約 166／日米相互協力及び安全保障条約 192／日韓基本条約 194／日中共同声明 194



動画

イギリスの産業革命 37／足尾鉍毒事件 83／日露戦争 93／米騒動 127／東京大空襲 150／朝鮮戦争 156／核兵器 201／石油危機(オイルショック) 207／EUが発足した理由 219／自衛隊の国際貢献 228

※本書掲載の二次元コードからインターネットを使用した学習ができます。二次元コードの使用にあたって使用料はかかりませんが、通信料はかかります。インターネットを使用するには、先生の許可を得たうえで使用してください。また、使用にあたっては個人情報の扱いに十分注意してください。

(動画はすべてNHK for Schoolのコンテンツです。)



# グローバル化と私たち

グローバル化への問い —— 172

- 1 冷戦と国際関係 / 2 人と資本の移動 / 3 高度情報通信 / 4 食料と人口  
5 資源・エネルギーと地球環境 / 6 感染症 / 7 多様な人々の共存

## 第8章 冷戦と世界経済

- 1 集団防衛体制と核開発 —— 179  
2 米ソ両大国と平和共存 —— 181  
3 西ヨーロッパの経済復興 —— 183  
4 第三世界の連携と試練 —— 186  
5 55年体制の成立 —— 190  
6 日本の高度経済成長 —— 195  
7 核戦争の恐怖から軍縮へ —— 200  
8 冷戦構造のゆらぎ —— 202  
9 世界経済の転換 —— 206  
10 アジア諸地域の経済発展と市場開放 —— 209

## 第9章 グローバル化する世界

- 1 冷戦の終結と国際情勢 —— 214  
2 ソ連の崩壊と経済のグローバル化 —— 217  
3 開発途上国の民主化と独裁政権の動揺 —— 220  
4 地域紛争の激化 —— 223  
5 国際社会のなかの日本 —— 226

## 第10章 現代の課題

- 1 現代世界の諸課題 —— 230  
2 現代日本の諸課題 —— 233

現代的な諸課題の形成と展望 —— 235

年表 —— 237

索引 —— 242

世界の自然 —— 表見返し

現代の世界 —— 裏見返し

### 凡例

- 年代は西暦を主とし、日本の年号は( )の中に入れた。明治5年までは日本暦と西暦とは1カ月前後の違いがあるが、日本に関する年月は日本暦をもとし、西暦に換算しなかった。改元のあった年は、その年の初めから新しい年号とした。
- 資料引用はできるだけ必要な部分にとどめたが、その際も前略・後略は特別には記さなかった。また、読みやすく書き改めたところもある。
- 国名は、次のように表記する場合がある。(日本：日 中国：中 韓国：韓 アメリカ：米 ロシア：露 イギリス：英 フランス：仏 ドイツ：独 オーストリア：奥 イタリア：伊 オランダ：蘭 ソヴェト社会主義共和国連邦：ソ)

年間指導計画例

12月  
6

1月  
6

2月  
6

3月  
6

合計時数  
70



# 近代化への問い

1～6よりテーマを選び、資料をもとに近代化にともなう人々の生活や社会の変容について考え、疑問に思ふ点などをまとめて、問いを表現してみよう。

「近代化への問い」では、「交通と貿易」「産業と人口」「権利意識と政治参加や国民の義務」「学校教育」「労働と家族」「移民」の6テーマのなかから選択し、資料を読みとくしながら「近代化」について考え、この先の学習内容に向けて疑問や課題意識をもつようにします。

## 1 交通と貿易

**B** イギリスの鉄道路線(谷川穂波「近代ヨーロッパの情熱と苦惱」より作成)

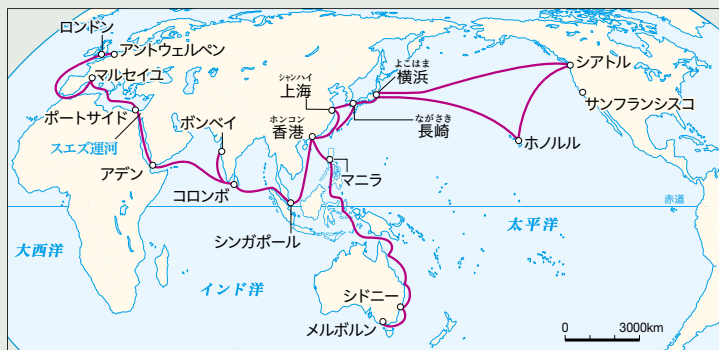


①近代化は交通手段の革新をともなった。**A**は、1872(明治5)年にイギリスを訪れた岩倉使節団の見聞である。また、**B**は、1836年と1852年のイギリスにおける鉄道路線を示した地図である。これらから何を考えることができるだろうか。鉄道の敷設距離の推移、工業化と鉄道の関係などに注目して、問いを表現してみよう。

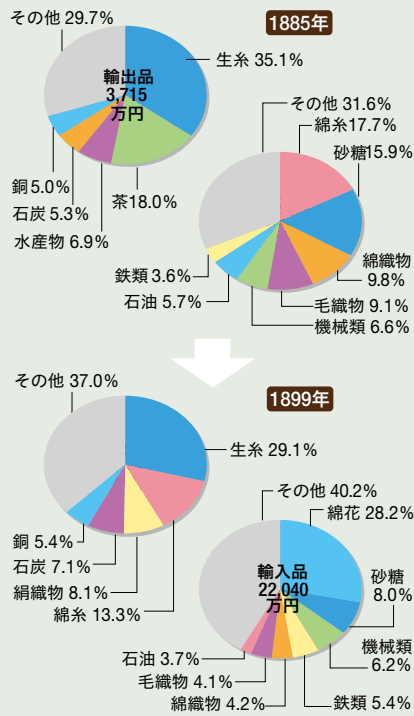
### A 岩倉使節団の見聞

ヨーロッパの農業・工業・商業の3つが今日のように盛んになったのはこのようにわずかの間のことであったことをわれわれは知った。いまの欧州と40年前の欧州と、状況がどれほど異なったかというのを想像してみしてほしい。40年前には、陸を走る汽車もなく、海を行く汽船もなく、電線が通信を運ぶこともなかった。運河で小舟を曳き、海上で帆船を操り、道には馬車が走り、駅馬を走らせて通信を運び、兵士は銅の大砲やフリス銃を使って数十歩の近距離を隔てて戦った。……  
(久米邦武『米欧回覧実記』、現代語訳)

②交通手段の革新は世界各地を貿易で結びつけた。**C**は、1885(明治18)年と1899(明治32)年の日本における品目別の輸出入の割合である。**D**は、1885年に設立された日本郵船会社が、1896(明治29)年までに開設したおもな定期航路を示した地図である。これらから何を考えることができるだろうか。輸出入の総額や品目の変化、航路と輸出入品目の関係などに注目して、問いを表現してみよう。



**D** 日本郵船会社のおもな定期航路(1896年)

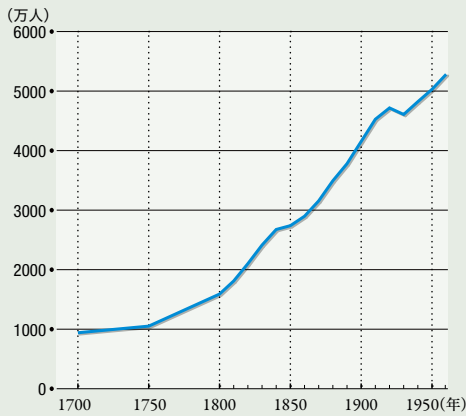


### C 明治時代の日本の輸出入の割合

(東洋経済新報社編「日本貿易精覧」より作成)

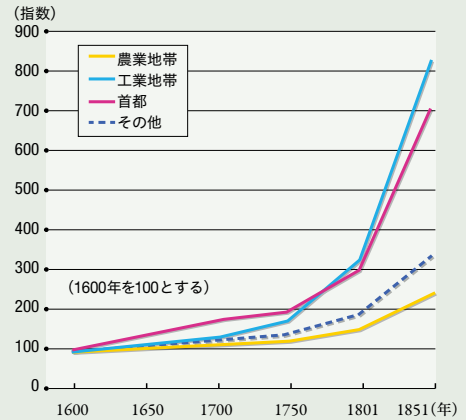
## 2 産業と人口

① 18世紀後半にイギリスで始まった産業革命は、その人口に大きな変化をもたらした。<sup>→p.36</sup> **A** イギリスにおける人口増加と、**B** イギリスの産業地帯別人口の増加率を示したグラフからどんなことが考えられるだろうか。産業とそれを支える労働力などに注目して、問いを表現してみよう。



**A** イギリスにおける人口増加

(宮崎犀一ほか編『近代国際経済要覧』より作成)

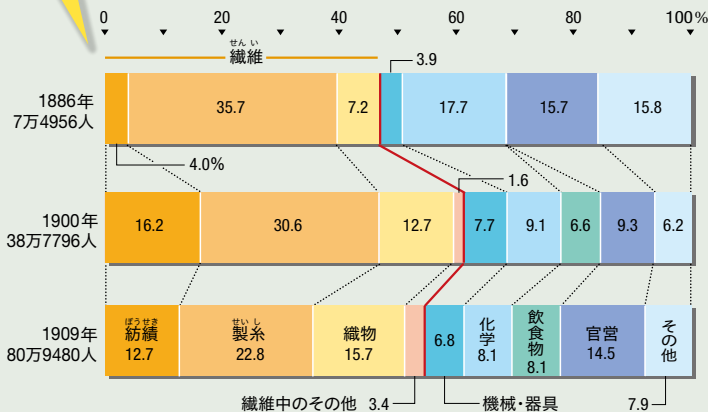


**B** イギリスの産業地帯別人口の増加率

(長谷川貴彦『産業革命』より作成)

近代化にともない生活や社会が変化したことを示す史料やグラフ、地図などの資料をもとに、疑問に思ったこと・追究したいことなどを見出し、問いを表現します。

② 日本の工場労働者は、1886(明治19)年から1909(明治42)年の23年間で、10倍以上に増加した。**C** は工場労働者の数とその内訳、**D** は同じ時期の人口の推移である。工場労働者の数やその内訳の変化、また、工場労働者の日本の人口に占める割合などに注目して、問いを表現してみよう。また、**A**・**B** もふまえて考えてみよう。



**C** 日本の工場労働者数の内訳 (大石嘉一郎編『日本産業革命の研究』より作成)

年	人口
1886	3854万1000人
1900	4384万7000人
1909	4855万4000人

**D** 日本の人口 (総務庁統計局監修『日本長期統計総覧』より作成)

# 結びつく世界

節ごとに導入の問いを設け、節ごとの学習の目的を示しています。

1

## アジア諸地域の 繁栄と日本

アジア諸地域では広大な領域をもつ帝国が繁栄していたが、やがて衰退に向かった。日本は江戸幕府のもと、独自の体制を築いていた。アジアの諸帝国が繁栄できた理由は何だったのだろうか。また、アジア諸国とヨーロッパ諸国の関係はどのようなものだったのだろうか。

### 西・南アジアの イスラーム帝国

16世紀以降の西アジア・南アジアでは、オスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国という3

つのイスラーム帝国が並立して繁栄した<sup>1</sup>。これらの帝国は多数の民族を統合し、国内外の流通も盛んで、国際性が豊かであった。

1453年にコンスタンティノープルを征服し、ビザンツ帝国を滅ぼしたオスマン帝国は、16世紀半ばのスレイマン1世の時に最盛期を迎えた。スレイマン1世は北アフリカからイラク・ハンガリーまでを帝国の領域とし、官僚制度を整え、イスラーム法<sup>2</sup>にもとづく政治をおこなった。帝国内に住むキリスト教徒やユダヤ教徒の共同体には自治を認め、ムスリム(イスラーム教徒)との共存をはかった。地中海貿易をはじめ、首都<sup>2</sup>を中心とした帝国の内外で商業が発展し、帝国の経済的基盤となった。また、フランスなどのヨーロッパ人には、領内での居住と通商の自由を公認した(カピチュレーション)。しかし、1683年のウィーン包囲の

① 聖典『コーラン』(『クルアーン』)と預言者ムハンマドの言行をもとにした法。

② コンスタンティノープル。この都市はオスマン帝国の首都となり、やがてイスタンブルと呼ばれるようになった。

### 16世紀末のアジア





失敗で領土は縮小に転じた③。

イランでは16世紀後半にサファヴィー朝が最盛期を迎えていた。サファヴィー朝はイスラーム教のシーア派を国教とし、首都のイスファハーン②は美しいモスク・宮殿・庭園などを誇り、「イスファハーンは世界の半分」と呼ばれるほど繁栄した。また、生糸などの特



②イスファハーンの「王の広場」と「王のモスク」

産物を輸出し、インドなどアジア諸国との貿易のほか、ヨーロッパ諸国と外交・通商関係を結んだ。その後、イランには、ナーディール＝シャー1688～1747がアフシャール朝を建国し、さらにテヘランを首都としたガージャール朝がおこった。

③ハンガリーを支配していたオスマン帝国は神聖ローマ帝国ハプスブルク家のウィーンを攻撃したが、失敗し、17世紀末にはハンガリーの大半を喪失した。

インドで16世紀に成立したムガル帝国は、第3代皇帝アクバル1542～1605が中央集権的な統治機構を整備し、また、非ムスリムに課せられていたジズヤじんとうぜい（人頭税）を廃止してヒन्दゥ教徒との融和をはかった。15世紀以降になると、ポルトガルやオランダ・イギリス・フランスなどが進出し、各地に拠点きょてんを築いて貿易をおこない、とくにインド綿織物めんおりものは東南アジアやヨーロッパに輸出された。17世紀後半、アウラングゼーブ1618～1707の時代に帝国は最大の版図はんととなったが、しだいに帝国の支配は弱体化していった。

帝国は、海外輸出向けの綿織物生産を含む活発な商品生産に対して積極的に関与せず、また、イスラーム教に深く帰依したアウラングゼーブはヒन्दゥ教寺院の破壊や人頭税復活を命じて、非ムスリムの反発をまねいた。18世紀初めにアウラングゼーブが死ぬと、ベンガルやデカン高原に事実上の独立政権が誕生し、ムガル帝国は解体に向かった。

本文を読む際の着眼点としてQを設け、考察をうながしています（解答例は教授資料授業実践編に掲載しています）。

## 東南アジア

東南アジアには16世紀以降、ポルトガルやスペイン・オランダ・イギリスなどヨーロッパの勢力が進出し、東アジアからインド洋にかけての海域でおこなわれたアジア域内貿易ちゅうけいちの中継地として栄えた。なかでもタイのアユタヤ朝は、国際貿易からの利益を財政的な基盤とする典型的な港市国家④であった。オランダ東インド会社こうしんりょうはマルク（モルッカ）諸島の香辛料を独占的に入手したほか、日本などアジア各地に商館を設置し、アジア域内貿易から利益を得た。また、スペインが拠点をおいたマニラはメキシコのアカプルコと大型帆船せんであるガレオン船によって結ばれ、ラテンアメリカ（中南米）で産出された銀の一部はマニラ経由けいゆで中国に流入した。

Q ヨーロッパ諸国がアジアに來航した理由は、何だったのだろうか。

④東南アジアで伝統的にみられた国家のあり方の一形態。港市を中心に国家が建設され、国際貿易に財政的な基盤をおいた。マラッカ王国が代表例。





**3 足利義満** 明への朝貢を始め足利義満は、明の皇帝から「日本国王源道義」(道義は義満の僧侶としての名)宛の返書を受け取った。それ以後、室町幕府の将軍は明宛の公式文書に「日本国王源」と署名した。(鹿苑寺蔵)

**Q** 室町幕府にとって、明への朝貢はどのような点で利益があったのだろうか。

**5 周辺国**の首長が中心国の王朝の権威を認め、貢物をもった使節を中心国に送り、中心国の君主が使節に接見して首長の周辺国支配を承認し、返礼品を与える制度。国際秩序を確認する外交儀礼であるとともに交易の側面ももつ。邪馬台国の卑弥呼による使節派遣や、遣隋使・遣唐使など、日本もしばしば中国の王朝に朝貢をおこなった。

**6 当時**、日本に來航するポルトガル人は「南蛮人」と呼ばれた。「南蛮貿易」での日本の輸入品は、生糸・絹織物・陶磁器などの中国物産が主であり、最大の輸出品は銀であった。

### 明の朝貢体制と東アジア

東アジアの国際関係の特徴は、古くから中国の王朝を中心とする朝貢<sup>6</sup>関係が結ばれてきたことである。14世紀半ば、モンゴル人の建てた元を北方に駆逐して漢人による中国支配を復活させた明は、周辺諸国と積極的に朝貢関係を結んだ。14世紀末に成立した朝鮮王朝や、南北朝を統一して権力を確立した日本の室町幕府<sup>3</sup>、15世紀前半に統一政権をつくった琉球王国は、政権の安定と貿易の利益を求めて、明と朝貢関係を結んだ。さらに明は、ムスリムの宦官である鄭和<sup>1371-1434頃</sup>の率いる大艦隊を東南アジア・インド洋に派遣して、この方面の諸国にも朝貢をうながした。

朝貢関係においては、中心国は周辺国に対して大国の度量を示すため、貢物の数倍の価値のある返礼品を与えることが一般的であり、朝貢を通じて明から与えられる銅銭や生糸・絹織物などは、周辺国の経済を活性化させた。しかし一方で明は、対外交易を政府の管理する朝貢貿易に限ったため、民間の自由な貿易は阻害された。

### 16~17世紀の東アジア

16世紀になると、「大航海時代」<sup>16</sup>の世界的な商業の活発化が、東アジアの朝貢体制を動揺させた。中国東南部の沿岸では、中国人や日本人の入りまじる商人集団が、明の取締りに逆らって密貿易をおこなうかたわら、略奪行為もおこなうようになり、彼らは中国側から「倭寇」<sup>4</sup>と呼ばれた。貿易統制の困難さに直面した明は、16世紀半ばに民間による海上貿易の禁止を緩和したが、中国の商人による日本との直接の貿易は許されなかった。そのため、日本と中国との双方に拠点を得たポルトガル人が日中間の貿易の担い手となり、大きな利益をあげた<sup>6</sup>。

16世紀以降、貿易の利益や鉄砲など新しい軍事技術の導入によって、中国周辺では強力な軍事政権が登場し、諸集団の抗争を制して統一事業を進めていった。日本では、織田信長<sup>1534-82</sup>・豊臣秀吉<sup>1537-98</sup>の政権を経て江戸幕府



**4 倭寇図巻** 明の末期に中国で描かれたもの。左側が明軍で、右側が倭寇。(東京大学史料編纂所蔵)

**Q** 中国側は、当時の「倭」をどのようにとらえていたのか、服装などから考えてみよう。

が成立し、中国東北部では女真人(満洲人)の政権が成長した。日本の統一後、豊臣秀吉は大陸への進出をめざし、朝鮮侵略(文禄・慶長の役)をおこなった。しかし、朝鮮側の抵抗や明の援軍に苦しめられ、秀吉の死によって撤兵した。一方、中国東北部では17世紀初めに満洲人が新たな王朝(後金、ついで清と改称)を建てて明に対抗し、朝鮮を服属させた。引き続き戦争で弱体化した明は、農民反乱によって滅亡し、1644年、清が中国本土を占領し、北京を首都として大帝国を築くこととなった。



**清の政治と経済** 満洲人による清は、もともと中国東北部で勢力を拡大する際、モンゴル人や漢人を政権に参加させていた。中国本土占領後も、領土の拡大につれて、チベット人や東トルキスタンのムスリムを支配下に加えていった。清の前半には、康熙帝をはじめとして有能な皇帝が続き、彼らは、武芸を重んじる北方民族のリーダー、学問を重んじる中国王朝の皇帝、チベット仏教の支援者など様々な側面を兼ね備えて、大帝国の統合をはかった。人口の圧倒的部分を占める漢人の住む中国本土では、中央集権的な官僚制度や、官僚を儒学の試験で登用する科挙など、従来の漢人王朝の制度が継承されたが、漢人の男性に辮髪を強制したり、清に逆らう言論を弾圧したりするなど、きびしい政策もとられた。

明と比べて、清の経済は自由放任的であり、中国の商人による海外貿易やヨーロッパ船の来航によって、中国には茶や生糸の対価として銀が流れ込み、国内商業の発展を支えた。18世紀半ば、清は治安上の理由からヨーロッパ船の来航を廣州1港に限定したが、貿易額はその後も増大を続けた。18世紀には政治の安定のもと、人口が急増した。「大航海時代」にアメリカ大陸から伝来したトウモロコシやサツマイモなど、山地でも栽培可能な新作物は、山地の開墾をうながして、人口増を支えた。しかし、開墾による環境破壊と自然災害の増加は社会不安を生み出し、18世紀末には四川を中心とする新開地の山間部で白蓮教徒の乱がおこった。この反乱は10年近く続き、清の財政を窮乏させた。

**幕藩体制下の日本** 日本では、豊臣政権で秀吉につぐ有力者であった徳川家康が、秀吉死後の争いを制して1603(慶長8)年に征夷大將軍に任じられ、江戸幕府を開いた。これ以

**5 清代のアジア(18世紀後半)** 清の領土のうち、直轄領とされたのは、中国内地や東北地方であり、モンゴル・チベット・新疆(東トルキスタン)は、藩部として在来の支配者を介した統治がおこなわれた。

**7** チベット仏教は、ダライ=ラマを教主とする仏教で、モンゴル人にも信仰されていた。ダライ=ラマをはじめとするチベット仏教の高僧は活仏といわれ、その地位は転生(生まれかわり)によって受け継がれるとされた。

**8** 髪の一部を残して頭を剃り、残った髪を長くのばして編み、背後にたらず満洲人の風習。

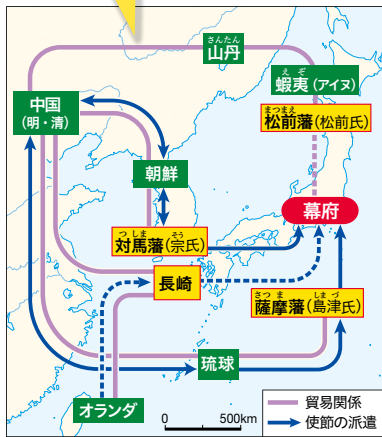
**Q** 満洲人は、圧倒的多数派である漢人を、どのように統治したのだろうか。



**6** 辮髪(『清俗紀聞』部分、国立公文書館蔵)



当時の国際関係を一瞥できる地図を掲載しています。



### 7 日本の対外関係

幕藩体制下の日本は、周辺諸国・諸民族とのあいだにどのような関係を築いていたのだろうか。

9以後、朝鮮は捕虜の返還や将軍就任を祝う使節(通信使)を日本に派遣した。

10すでにイギリス船は来なくなり、スペイン船の来航は禁止されていた。また日本人の海外渡航や在外日本人の帰国も数年前に禁止されていた。

11このように対外通交をきびしく管理したため、この政策を「鎖国」と呼ぶことがある。「鎖国」のもとでも、時期がくだるにつれて儒学や蘭学が発達・普及した。

18世紀以降、生糸や砂糖・人参の国産化が進んだのは、なぜだろうか。

8オランダ船から出島への荷揚げの場面(石崎融思画「唐館蘭館図巻」1801年、長崎歴史文化博物館蔵)

降、江戸の幕府が、各地に城をかまえる大名家(藩)を従える統治体制が築かれた。これを幕藩体制と呼ぶ。諸大名は武士を中心とする家臣団を城下に集住させて、幕府の法や命令に則って領国を独自に支配し、米を中心とする年貢を、領民の大部分を占める百姓から村ごとに徴収した。大名は領地の支配を認められたかわりに、将軍に対して普請(土木工事)などを含む軍役をつとめた。

徳川家康は、対馬の宗氏を通して朝鮮と文禄・慶長の役の講和を実現し、対馬藩に朝鮮との通交・貿易の独占を認めた。

また2代将軍秀忠や3代将軍家光は基督教の禁止を強化しつつ大名の統制を強め、1635(寛永12)年には諸大名が江戸に屋敷をおき、領国から江戸へ1年おきに交代で参上する参勤交代を義務づけた。まもなく九州で基督教信仰にもとづく激しい一揆がおこると、1639(寛永16)年にポルトガル船の来航を禁止し、オランダ商館を長崎の出島へ移し、幕府が派遣した長崎奉行がこれを監視した。以後、長崎にはオランダと中国の商船のみが来航した。

幕府は基督教を厳禁し、家ごとに個人の宗旨を檀那寺に証明させる方法で宗門改めを制度化して、すべての人が仏教寺院の檀家となることを義務づけた。

### 江戸時代の経済

江戸時代には長崎のほか対馬・琉球を通じて貿易がおこなわれ、日本へは中国産の生糸・絹織物、東南アジア産の砂糖、朝鮮の人参をはじめとする薬種などが輸入された。輸出品は初めはおもに銀で、やがて銅とされ、それら貨幣の素材となる鉱物資源が不足すると俵物(海産物)とされていった。

幕藩体制が安定すると、18世紀初めまでに日本の人口は急増した。江



戸が京都・大坂と並ぶ巨大都市に発達し、これら三都を幕府は直轄して支配した。京都は朝廷や寺社の本山が集中し、伝統的な手工業や文化の中心地として新しく繁栄した。大坂は水上交通の要に位置して商業・金融の中心地となり、近郊には綿花(木綿)・菜種の栽培とそれに関連した加工業が発達した。綿花は衣類に、菜種の油は灯火や食用に用いられ、衣食住の水準を向上させた。木綿につづいて18世紀以降、生糸や砂糖・人参もしだいに国産化された。

諸大名は大坂や江戸に蔵屋敷をおき、年貢米や特産物を領国から送って売却し、幕府が鑄造させた金属貨幣を獲得して、江戸屋敷での支出をまかなった。こうして各地域と大坂・江戸のあいだを結ぶ舟運・流通や、三都を結ぶ金融・通信が発達した。

一方、発達する商品経済のなかで財政難におちいった幕府や藩は、商品の生産や流通に関与し利益を求めるようになった。また、幕府は金貨を改鑄して差額収入を獲得し、諸藩は領内限りで通用する藩札を発行するなどして財政をおぎなった。民衆の生活は貨幣経済にいつそう巻き込まれ、貧富の格差が広がって、一揆や騒動が頻発するようになった。

## 琉球とアイヌ

琉球王国はかつて明へ朝貢する独立国で、日中両方の影響を受けた独自の文化をはぐくんでいたが、1609(慶長14)年、徳川家康の許可を受けた薩摩の島津氏に攻められ、その支配下におかれた。薩摩藩は毎年、琉球に貢納をさせる一方、その後も王国を存続させ、中国への朝貢貿易も継続させた。ただし琉球の貿易は薩摩藩や幕府の規制を受け、しだいに日本向けの砂糖生産に力を注ぐようになった。砂糖は薩摩藩や同藩領の商人によって大坂などで売られ、かわりに蝦夷地などで産した昆布や俵物が琉球へもち込まれ、中国へ輸出された。

蝦夷ヶ島と呼ばれた北海道では、アイヌの人々が独自の言語をもち、鹿・熊・海獣などの狩猟や鮭・鱒などの漁労を中心とする生活文化を築いていた。渡島半島南部を支配していた和人の武将松前氏は、1604(慶長9)年に徳川家康から蝦夷ヶ島の支配権を保証された。その実質はアイヌとの交易独占権であり、松前氏は家臣に交易権を知行として与えた。アイヌから和人へは鮭・鯨・昆布、千島列島産のラッコ毛皮などが、和人からは米・酒・タバコなどが交易された。18世紀に交易が商人による請負になると、利潤の追求が強まって、アイヌの人々の自立性は奪われていった。世界史のなかの日本を意識した記述にしています。

12 豊臣秀吉の朝鮮侵略に際して協力をせまられ、秀吉の死後、明との講和と貿易をめざす徳川家康から仲介を求められたが応じていなかった。

13 江戸幕府にも將軍の代がわり後と琉球国王の即位後に使節を派遣した。

14 現在の北海道本島は、古代以来、「蝦夷ヶ島」などと呼ばれた。江戸時代には、渡島半島南部を「松前地」と呼んで陸奥国の内とみなし、それ以外の「蝦夷地」(千島列島南部や樺太(サハリン)南部を含む)と区別した。

15 18世紀末には北太平洋のラッコを求めてロシア・イギリス・アメリカの船が往来し、日本に接近するようになる。

16 アイヌは樺太を介して、アムール川下流域(山丹)の住民から鷲羽や中国の絹織物などを買って、狐・黒貂など小型獣の皮などを売る交易もおこなっていた。19世紀になると幕府が蝦夷地を直轄し、山丹交易も管理下においた。



9 夷會列像図(イコトイ)

1789(寛政元年)、和商人の酷使に反発したアイヌが蜂起し、それを鎮圧した松前藩の家老崎崎波響が、藩に協力したアイヌの有力者12人の肖像を描いた。これはそのうちの1人、厚岸のイコトイ。蝦夷錦(清朝の官服)の上に、ロシアのものと思われる赤い外套をまとった姿で描かれている。(国立民族学博物館蔵)

# ヨーロッパにおける 主権国家体制の形成と ヨーロッパ人の海外進出

16世紀以降、ヨーロッパ諸国は世界の一体化を進めていく。当時のヨーロッパ諸国内では、どのような変化がおこっていたのだろうか。また、ヨーロッパ以外の地域とは、どのような関係ができていったのだろうか。

5

## 近代の前提

1500年頃、ヨーロッパや東アジアなど世界の諸地域は、隣接する地域との貿易や交流はあったものの、基本的には地域ごとに完結した存在であった。しかし、その後18世紀初めまでには、アメリカ大陸産の銀が中国に大量にもち込まれるなど、世界の諸地域間の経済的な結びつきが強まった。こうした「世界の一体化」を進めたのは、西ヨーロッパの諸国であり、これらの国々は競って国際貿易を拡大した。政治面では、この時期の東西ヨーロッパの内部で、小さな国家が合同したり周囲に吸収されて消滅したりする一方で、存続した国々では中央政府に権力が集中するようになって、本格的な首都が成立した。さらに、思想面では宗教改革がおこってキリスト教が分裂した一方で、自然科学が発達し、また人間の幸福の増大に関心が向けられるようになった。

10

15

グラフや地図はカラーユニバーサルデザインに則り、読みやすい配色や線種で作製しています。

① こうした本格的な近代化の前提をなす16世紀から18世紀半ば頃までの時代を、ヨーロッパ史では近世と呼ぶことがある。

これらの変化を経て、18世紀末以降のヨーロッパ諸国およびアメリカ合衆国は、政治革命を実現して国民国家を築き、産業革命による工業化を開始し、さらにアジア・アフリカへ進出することで、本格的な近代化を進めることになる①。

20

## 主権国家体制の形成

16世紀から17世紀の世界では、明や清・オスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国などの

大国がアジアで栄えていた。その一方、ヨーロッパではローマ帝国の後継国家を自任していた神聖ローマ帝国の力が弱まり、広く支配をおよぼす単一の権威や権力は失われた。その結果、イギリスやフランス・スペイン・オランダをはじめとする中規模の国々が台頭した。

25

30

これらの国々は大半が君主

117世紀半ばのヨーロッパ







国であり、各国の君主は国内では諸侯(貴族)の力をおさえて中央集権化を進め、対外的にはほかの国々と形式上は対等な立場で外交関係を結んだ<sup>2</sup>。こうしたヨーロッパの国家構造と国際秩序を**主権国家体制**と呼ぶ。

現代世界の国際秩序も、主権国家体制の延長線上にある。ただし、この時期の主権国家は19世紀以降の国民国家とは異なり、国内の社会は身分秩序にもとづいており、主権者は君主であった。また、しばしば同一人物が複数の王国の君主を兼ねた(同君連合<sup>3</sup>)。この体制は平和共存の体制ではなく、各国が覇権や生き残りをかけて争い、戦争が頻発した<sup>1</sup>。

同じ君主国ではあっても、それぞれの国は異なる道をたどった。ドイツ(神聖ローマ帝国)では、帝国に君臨する皇帝と、帝国内の領邦<sup>4</sup>で実質的な君主となっていた多数の諸侯のあいだで権力が分立していたが、16世紀の宗教改革と17世紀の長期にわたる戦争の結果、皇帝の権力が弱まり、それぞれの**領邦国家**が独自に発展することになった。一方、フランスではルイ14世の時代に、君主が国内の貴族の力をおさえつつ、全国議会も開かずに権力を自身に集中して統治する体制が築かれた。また、フランスの宮廷は富も蓄積して、西ヨーロッパの文化の中心地ともなった<sup>2</sup>。

イギリスでは、地主(貴族および平民)を中心とする全国議会の力が強く、17世紀半ばのピューリタン革命で一時的に君主政を廃止し、共和政に移行した。その後、君主政に戻ったが、1688~89年に**名誉革命**がおけると、権利の章典によって国王と議会<sup>3</sup>が共同で統治に当たる原則<sup>4</sup>が確立され、それをもとに世界初の**立憲君主政**<sup>5</sup>が始まった。この体制はのちに各国の君主政のモデルとされた。さらに、議会の権力が増すと、

**2** **ヴェルサイユ宮殿** ヨーロッパ最大級の敷地と建物をもって。また、貴族はこの地に居住するように定められており、ルイ14世の威光を全土に示した。

**2** この点で、天下の唯一の中心である中国に周辺諸国が服属する、との考えにもとづく朝貢関係とは顕著な違いがあった。

**3** 例として、16世紀前半の神聖ローマ皇帝は、スペインやネーデルラント(オランダ)、ナポリ(イタリア)などの君主も兼ねた。

**Q** 16~17世紀のドイツ・フランス・イギリスでは、それぞれどのような変化が生じていたのだろうか。

**4** 半自立的な領域であり、プロイセンやオーストリアが代表例である。

**歴史理解の鍵となるキーワードをゴシック体としています。**

**5** 憲法によって国王の権力が制限された政治体制。



#### 4 権利の章典 しやうてん

議会の上下両院は……イギリス人の古来の権利と自由をまもり明らかにするために、次のように宣言する。

1. 王の権限によって、議会の同意なく、法を停止できると主張する権力は、違法である。
4. 国王大権<sup>①</sup>と称して、議会の承認なく、王の使用のために税金を課することは、違法である。
6. 議会の同意なく、平時に常備軍を徴募し維持することは、違法である。
8. 議員の選挙は自由でなければならない。
9. 議会での言論の自由、および討論・議事手続きについて、議会外のいかなる場でも弾劾されたり問題とされたりしてはならない。
13. あらゆる苦情の原因を正し、法を修正・強化・保持するために、議会は頻繁に開かれなければならない。

① 君主がもつとされた特別の権限。

3 イギリス議会 名誉革命の当時はまだ制限選挙であり、有権者は成人人口のごく一部にとどまった。また無競争選挙も多かった。こうした制約があったが、議会での言論は、世論と結びついて国政に影響力を発揮した。

Q 権利の章典に記された立憲君主政の原理は、現在の日本にはどのように継承されているだろうか。

史料の読みときを通じて、現代とのつながりを意識させるQを設けています。

Q ロシアの東方への進出に対して、当時の清や日本はどのように応じたのか、調べてみよう。

君主はみずからの権力を有力議員に代行させるようになり、この人物(首相)が議会の多数派を率いて国政を動かす議院内閣制が成立した。これも世界各国の議会制の先例となった。

なおオランダやヴェネツィア・ジェノヴァのように、貴族が中心となって国をおさめる共和政をとる国もあった。これらは古代ローマの共和政を起源としていたが、独立後のアメリカ合衆国や革命期のフランスが新たに人民を主体とする共和国を築き、今日の世界に数多く存在する共和国の先例となった。

東ヨーロッパでは、16世紀末まで海港をほとんどもたず、独自の内陸世界をなしていたロシアが、17～18世紀にオスマン帝国と戦って領土を黒海沿岸に広げ、またバルト海にも進出して、ヨーロッパ諸国と直接の関係をもちはじめた。ロシアは東方でもシベリアを経て極東に到達し、清と通商を開いた。こうしたロシアの拡大は、その後の世界史に大きな意味をもつことになる。

#### 宗教改革と科学革命

主権国家体制の形成によって、新しい形の国家と国際関係が登場したが、16～17世紀のヨーロッパは、精神面でもそれ以前と比べ大きく変化した。第1が、西ヨーロッパにおける宗教改革である。現世の利益を追求しがちだったカトリック教会への抗議の動きとしてプロテスタント諸派が登場した一方で、カトリックの側でも改革の動きがおこり、近世の西ヨーロッパでは全般的に宗教意識が高まった。カトリックの教えでは、人が神に救われるためには聖職者による導きと、個人の善行が必要とされたが、プロテスタント諸



派は、聖書や礼拝の言語をラテン語から諸国の日常語に変更し、真の信仰は信徒がみずから聖書を読んで得るものとした。プロテスタントはこうした点で後世の個人主義に通じる面があったが、その一方で、人間が救われるかどうかは神によってのみ決定されるとするなど、人間中心主義とは異なる性格ももった。



5 ロシアの領土拡大

宗教意識が高まった結果、プロテスタントとカトリックのあいだで対立や内戦が生じた一方、キリスト教がヨーロッパの外部に伝えられた。

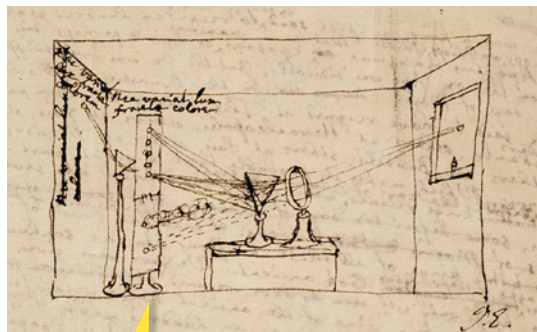
とくにカトリックの改革で誕生したイエズス会は、布教と教育に力を入れ、「大航海時代」のヨーロッパの海外進出と連携して、中南米(ラテンアメリカ)や日本をはじめとするアジア諸地域にも布教した。このように、ヨーロッパ外部へのキリスト教の拡大は、資金と組織にすぐれたカトリックによって当初は進められ、プロテスタントの海外への拡大は、イギリスから北アメリカ大陸へ渡った移民を除くと18世紀以降のことになった。

宗教改革とその影響が一般の民衆にもおよんだのとは異なり、17世紀のヨーロッパで花開いた自然科学は、一部の科学者の営みによるものであったが、後世に多大な影響を与えることになった。この時代には高精度の望遠鏡が用いられるようになり、天体の運動法則が解明された一方で、顕微鏡の発明により、肉眼ではみえない世界の探究も始まった。こうして、観察の対象となる自然界そのものが拡大するとともに、自然界の諸現象にひそむ法則を科学者たちが追求し、新たに解明された法則が検証を経て確認される、という自然科学の基本的な手続きが確立した。また、この時代には各国で科学協会やアカデミーが創設され、専門的な科学者が活動する場が整備されつつあった。こうした一連の変化を科学革命と呼ぶ。科学革命の結果、真理は聖書や古代の著作のうちにあるのではなく、探究を積み重ねて人間の知を絶えず拡大・刷新していくことで獲得されるとの理解が広まった。また、人間による自然の支配と管理によって、人間の幸福を増すことが可能であるとの考え方も登場した。

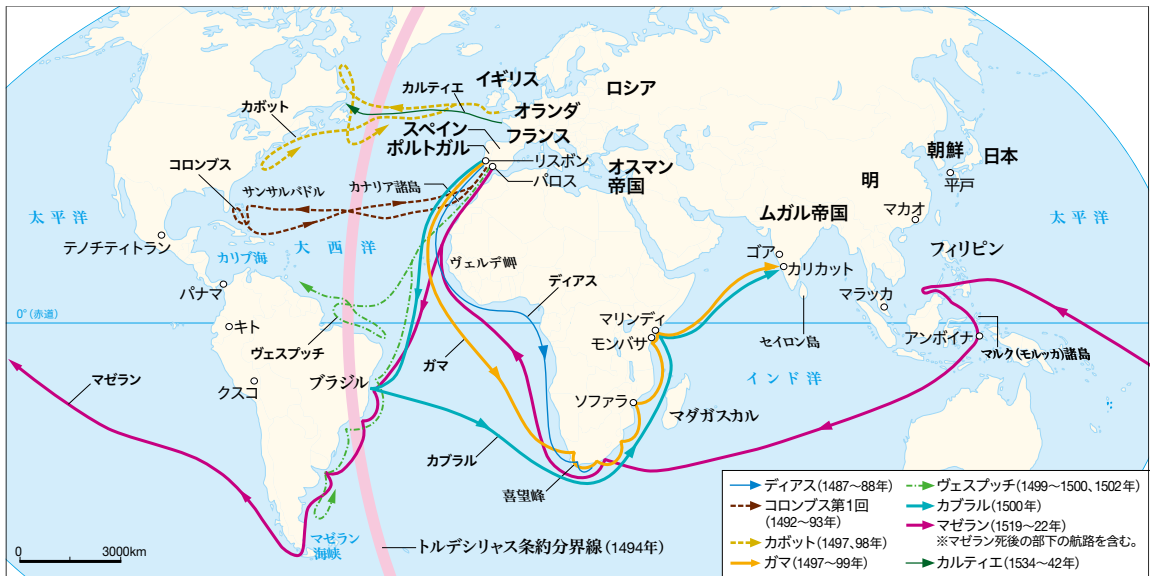
Q 宗教改革や科学革命は、人々の考え方にどのような変化をもたらしたのだろうか。

6 なお、ガリレイやニュートンは、物体の運動について、その法則のみを解明したのであり、彼らがつくりだした自然科学は、物体がなぜ動くのかを究明しようとしたそれまでの自然学とは異なる次元のものだった。

6 プリズムを用いた光の色別分散実験 ニュートン自身によるスケッチ。太陽光が色に分けられることは古代から知られていたが、ニュートンは厳密な実験により、太陽光は7つの色からなり、またそれらを合わせると元の光に戻ることを発見した。



ヨーロッパ人の海外進出 14世紀頃の地中海では商業が活発になっており、海



7 ヨーロッパ人による航海と探検

Q ヨーロッパが海外進出を開始した頃の南北アメリカとアジア地域には、どのような国家が存在していたか、調べてみよう。

7 日本のことを指すと考えられている。

8 この時代には、ヨーロッパ以外の地域でも貿易が盛んになったため、「大交易時代」と呼ばれることもある。

歴史的なできごとの背景や因果関係が理解しやすくなるような説明的な記述をここがけています。

上貿易で取引された物品のなかでも、とくにアジア産の香辛料は重宝された。しかし、15世紀にオスマン帝国が東地中海を勢力下におき、アジア産品に高い税を課したため、新たな貿易路の開拓は、多くの商人や君主にとって必要かつ魅力的な事業となった。またマルコ＝ポーロの『世界の記述』(『東方見聞録』)以来、どこかがあると信じられてきた「黄金の国」もヨーロッパ人の想像をかきたてた。加えて、キリスト教布教の熱意が高まっていた。イベリア半島ではキリスト教国が勢力を広げており、さらにアフリカの奥地にいると伝えられたキリスト教徒と連携してイスラーム勢力を挟撃するという構想は刺激的であった。

こうした事情があって、15世紀から16世紀にかけてのヨーロッパの人々は、富と信仰を動機に大西洋にみずからの活動の場を広げていった。その主役となって「大航海時代」を切りひらいたのは、ポルトガル・スペインの王家であり、これにイギリス・フランス・オランダが続いた。

「大航海時代」の結果、「世界の一体化」も始まったが(グローバル化の最初の段階)、その影響は南北アメリカ大陸とアジアでは大きく異なっていた。現在のアメリカ合衆国・カナダ地域では、先住民の社会は人口が少なく、貿易の対象となる物品に乏しかったため、イギリスからの入植者はしばらく自給自足型の経済を営んでいた。これに対して現在のメキシコ以南の地域では、スペイン人は先住民の文明を征服して財宝を略奪したあと、銀山を開発して採掘した銀をヨーロッパに輸出した。さらにスペイン人・ポルトガル人・イギリス人・フランス人・オランダ

絵画などの資料を参考にして、考察をうながすQを設けています。



人は、この地域の大陸およびカリブ海諸島に入植して大規模農園(プランテーション)を開き、サトウキビ<sup>8</sup>やコーヒーをもち込んでヨーロッパ<sup>9</sup>市場<sup>10</sup>向けの大規模生産を始めた。こうしたなか、ヨーロッパ人から感染した伝染病<sup>かこく</sup>や過酷な労働で先住民

の人口<sup>げきげん</sup>が激減して労働力が不足すると、西アフリカから大勢の黒人が奴隷<sup>れい</sup>として送り込まれた。このためアフリカの人口は大きく減少し、社会<sup>こうはい</sup>は荒廃した。さらに、ヨーロッパ人がキリスト教を広めたこともあって、南北アメリカの社会は根本的にかえられてしまった。

この一方で、ジャガイモやサツマイモ・トウガラシ・インゲン豆・トマト・ピーナッツ・トウモロコシ・タバコ・カボチャ・カカオなど、中南米から新たに<sup>のうさくぶつ</sup>もたらされた農作物が、ヨーロッパ社会に長期的に大きな影響をおよぼすことになった<sup>9</sup>。また、アメリカ大陸の銀はヨーロッパの経済を<sup>かこく</sup>活発化させ、大量に供給された砂糖がヨーロッパの食生活をかえることになった<sup>10</sup>。逆に、ヨーロッパ産品にとって「新世界」の植民地が重要な市場となる関係も始まった。こうして、経済的に一体化しつつあった世界の一角に、1つのまとまりをなす「大西洋世界」が出現した<sup>20</sup>のであり、ヨーロッパと南北アメリカ、アフリカは、こののち結びつきの度合いをいっそう強めていく。

ヨーロッパ人はヨーロッパとアジアの経済の結びつきも強めたが、アジアの政治秩序や文化にただちに大きな影響を与えたわけではない。彼らのアジア進出の基本的な性格は、領域的な植民地支配ではなく貿易<sup>きよ</sup>拠点<sup>てん</sup>の確保であり、インド洋においてムスリム商人に取ってかわり、さらに日明貿易<sup>にちみん</sup>にも参加したポルトガル人のように、既存の貿易網<sup>きそん</sup>に参入することで利潤<sup>りじゆん</sup>をあげていた<sup>10</sup>。同時にヨーロッパ人は、アジアから香料<sup>きん</sup>だけでなく、茶・陶磁器<sup>とうじき</sup>・綿織物<sup>めんおりもの</sup>・絹<sup>きぬ</sup>などの豊かな物産を大量にもち帰ったが、かわりとなる有力な商品をもたなかった。このため、ヨーロッパの対アジア貿易は赤字であり、その支払いには新大陸の銀が当てられたため、アジアに銀が集中した。結局、15～17世紀のヨーロッパ人による「世界の一体化」は、アメリカ大陸の<sup>じゆうぞく</sup>従属とアジアのさらなる繁栄をもたらしたのであり、ここに登場した世界経済は、アジア・ヨーロッパ・南北アメリカにかけて、強者と弱者を新たにつくり出した。

**8** サトウキビの収穫 アメリカ大陸やカリブ海の島々にもちこまれたサトウキビは、奴隷により大量生産された。図はカリブ海アンティグア島での刈り入れ風景。

**Q** サトウキビのプランテーションの労働には、どのような問題があるか、図を参考に考えてみよう。

**9** 「世界の一体化」によって各地に新たな物産<sup>ぶつさん</sup>が到来し、文化の創造をうながした。その1つが日本および中国からヨーロッパに伝わった茶であり、18世紀に本格化するイギリスの紅茶文化の起源はここにある。なお、スペインにおけるココア、イタリア料理におけるトマト、韓国料理におけるトウガラシの役割などを考えると、いわゆる伝統文化にはしばしば外来の要素が入っていることがうかがわれる。

**10** たとえばヨーロッパの菓子づくりの文化の発達は、アメリカ大陸からの大量の砂糖の供給を背景としている。

**11** なお、その後ポルトガル人にとってかわったオランダ人は、香辛料の価格の暴落を受けて、コーヒーなどを栽培するプランテーションを経営するための植民地支配を東南アジアの一部で始める(→p.58)。



## 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立

## 1 ヨーロッパ経済の動向と産業革命

産業革命は、資金を集めて機械を導入しつつ、労働者を雇用して大量生産をおこなう企業の登場によって生じる社会的な変化である。それはイギリスから始まり、やがてヨーロッパ諸国が続いた。これらの国では、どのような変化が生じたのだろうか。

社会の変化を大きな流れとしてとらえることができる記述にしています。

① こうした特許会社の例としては、イギリス・オランダ・フランスの東インド会社などがある。



① インド産の綿織物(18世紀後半)

## ヨーロッパ経済の動向

「大航海時代」以降に「大西洋世界」が形成され、またアジア貿易も始まったことで、ヨーロッパの海外交易には大きな変化が生じた。変化の第1が、それまでもっとも活発な商業地域であった地中海貿易圏の比重がしだいに下がっていったことであり、かわって北西ヨーロッパ、とくに海軍力にすぐれたオランダとイギリスが新たに台頭した。第2が、北東ヨーロッパ地域が北西ヨーロッパへの穀物供給地へと変化したことであり、穀物の安定した生産のため、領主による農民の統制が強化された。こうした違いは、その後の東西ヨーロッパのたどった道の違いの一要因となった。

ヨーロッパと南北アメリカやアジアとの貿易は、各国の民間商人と政府の共同作業としておこなわれた。その際に各国の政府がとった政策が重商主義である。その内容は、貿易特許をもつ会社を設立して保護し、外国の製品の輸入に高い関税をかけ、また自国や植民地の貿易から他国の船を排除するなど、排他的な経済圏を成立させようとするものであった。重商主義のもと、17～18世紀のヨーロッパ海外交易は際立った成長をみせ、当時のヨーロッパ経済の花形となった。しかし、こうした重商主義体制の枠組みのなかから、まったく新しい経済の仕組みが生まれ、19世紀には重商主義体制を崩していく。それが産業革命であり、この結果、工業がヨーロッパ経済の主役の地位を占めることになる。

## 産業革命の前提とイギリスの特殊性

産業革命は18世紀末のイギリスに始まるが、原因・結果ともに世界的な視点からみる必要がある。「大航海時代」にインド航路が開けると、華やかな模様のインド産綿織物が輸入されるようになり、17世紀のイギリスで人気商品となった。このため、従来の主要工業であった毛織物業が打撃を受け、18世紀初めにはインド産綿織物の輸入が禁止されるに至った。しかし、綿

織物の人気は衰えず、原料の綿花をインドから輸入して国内で綿織物をつくろうとする動きが生まれた。

また、イギリスは広大な海外市場も獲得した。とくに七年戦争後には、武器や綿織物など本国の工業製品をアメリカ西部に輸出し、そこで奴隷を買ってカリブ海や北アメリカ大陸南部のプランテーションに送りこみ、砂糖やタバコなどプランテーションの産品をもち帰って本国で消費したり、ヨーロッパ諸国に再輸出したりするかたちの三角貿易を大規模に展開するようになった。

こうして国内外で綿織物への需要が高まったことに加えて、イギリスでは科学革命に裏打ちされた機械工学の伝統があり、さらに豊富な鉄鉱石と石炭にめぐまれてもいた。これらの条件が重なって、18世紀後半のイギリスで種々の技術革新が生まれることになった。

### 産業革命と社会の変化

一連の技術革新のなかでもっとも重要なのが、すでに炭坑で用いられていた蒸気機関の製造業への転用であり、ここに人類史上はじめて、化石エネルギーを動力とする経済活動が本格的に始まった。その結果、1つの工場がもつ生産力は急増した。しかし、新しい機械の導入は多額の資金を必要とし、また不況による倒産も珍しくなかったため、工場主は女性や子どもを低賃金で雇った。また、こうした新しい工場で生産された安価な製品が手工業製品を圧倒したため、一部の職人は機械打ちこわし運動によって抵抗したが、弾圧された。結果として、資本をもつ経営者(資本家)が、賃金労働者を工場で雇用しつつ、利益の拡大を目的にほかの資本家と競争しながら自由に生産・販売するようになった。そして、職人の自律的な作業にかわって、機械の都合にあわせつつ時間によって管理される労働形態が生まれ、家庭と職場が分離した。産業革命は、こうした一連の技術革新と経営・労働形態の変革として綿工業で始まり、ほかの産業にも波及していった。

### 産業革命の世界的影響

安価で均質なイギリスの綿製品が輸出されるようになると、各国の在地の手織りの綿工業は大きな打撃を受けた。その顕著な例がインドやオスマン帝国であったが、逆にイギリスは綿花を自給できなかつたため、インドおよびアメリカ合衆国南部はイギリス綿工業のための原料供給

発明・改良・実用者	発明品	種別	発明年
ニューコメン	蒸気機関、ポンプ	動力装置	18世紀初め
ダービー	コークス製鉄法	製錬	1709年
ジョン=ケイ	飛び杼	織布機	1733年
ハーグリヴス	多軸紡績機 (ジェニー紡績機)	紡績機	1764年頃
ワット	蒸気機関の改良	動力装置	1769年
アークライト	水力紡績機	紡績機	1769年
クロプトン	ミュール紡績機	紡績機	1779年
カートライト	力織機	織布機	1785年
フルトン	蒸気船	交通手段	1807年
スティーヴンソン	蒸気機関車	交通手段	1814年

### 2 綿織物業・交通手段におけるおもな技術革新

Q ヨーロッパ諸国のうち、イギリスで様々な技術革新が生まれたのは、なぜだろうか。

Q 産業革命は、人々の生活をどのようにかえたのだろうか。



詳しく  
みてみよう!  
イギリスの  
産業革命

文字資料やNHK for Schoolへのリンクとなる2次元コードを設けています。

3 1840年の紡績工場 繊維産業では機械を動かす労働者の多くは、低賃金で雇われた女性や子どもであった。

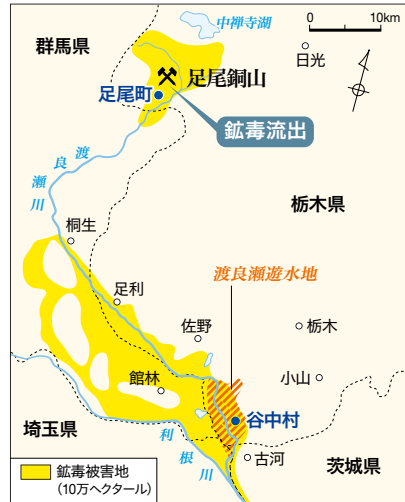


# 開発・保全

産業革命の進展は、様々な公害を引きおこし、その対策は政治・社会問題にもなった。栃木県の足尾銅山あしおどうざんでおこった公害事件を、「開発」と「保全」の視点から考えてみよう。

幕末はいごうに廃鉱同然だった足尾銅山は、実業家古河市兵衛ふるかわいちべゑの経営のもとで近代的な開発が進んだ。国内外の大量の電線需要などを背景に銅の生産は急増し、古河の経営手法は高く評価された。一方で、1890(明治23)年頃から洪水こうずいにともなう公害が発生し、栃木県選出の衆議院議員田中正造たなかしょうぞうは議会で政府に対策を求めた。

1897年から被害地の住民は上京して陳情ちんじょう活動を始めた。しかし、政府が足尾銅山の操業そうぎょうを停止させることはなかった。田中正造が議員を辞職して明治天皇へ直訴じきそを試みるなど、社会的関心が高まるなかで、1903(明治36)年から政府は新たな対策を計画して進めていった。



A 足尾銅山と被害地関係図

### B 第4回内国勧業博覧会(1895年)における古河市兵衛の受賞理由

鋭意えい鋳業全般の改良進歩かほくを図り、率先して電力の応用を拓ひらめ、又奮ふるてベスマル製銅せいどうの業を起し、産額年を逐おうて著いちじしく増加し、殆ほとんど全国産額の3分の1を占め、販路遠く海外に及ぶ。

(五日会『古河市兵衛翁伝』)

① イギリス人ベッセマーの製鋼法を応用した製鋼法。

### C 田中正造の活動と政府の対策

- 1896年 渡良瀬川大洪水。流域一帯の農作物や家畜に大きな被害。
- 1897年 政府、内閣に第1次砒毒調査委員会設置。足尾銅山に砒毒予防工事を命令。
- 1900年 陳情を試みる被害民と警官隊の衝突事件(川俣事件)。
- 1901年 田中正造、議員辞職。明治天皇に直訴を試みるも失敗。
- 1902年 政府、内閣に第2次砒毒調査委員会を設置。
- 1903年 政府、砒毒調査委員会の調査報告書を発表。洪水対策として遊水池化案が浮上。
- 1904年 田中正造、谷中村に寄留。
- 1906年 谷中村廃村を告示。住民の集団移転がおこなわれる。
- 1907年 政府、土地収用法にもとづき、反対住民の家屋を強制破壊。
- 1910年 政府、遊水池事業を開始。

「近代化と現代的な諸課題」では、部のまとめとして、「自由・制限」「開発・保全」の観点について、資料を読みときながら振り返り、自ら今日につく課題を設定し、考察・表現します。

発問1 足尾銅山の開発はどのように進展し、またそれはどのような公害を生み出したのだろうか。資料A~Cから読みとって説明してみよう。

発問2 政府は、公害問題に対してどのような対策を進めたのだろうか。資料A・Cから読み取って説明してみよう。

発問3 「開発」の視点で考えると、足尾銅山は日本の近代化にどのように貢献したのだろうか。また、「保全」の視点で考えると、政府の公害対策はどのような点で限界があったのだろうか。それぞれの視点を、資料A~Cをふまえて説明してみよう。

発問4 工業化にともなう環境の悪化は、現代においても対応が求められる課題である。望ましい「開発」と「保全」の関係を、話し合ってみよう。



# 国際秩序の変化や 大衆化と私たち

20世紀の前半、産業の発展を背景に、多くの人々が大量生産された同質の娯楽や商品を受<sup>じゆ</sup>受する大衆消費社会を迎えた。しかし、それは世界が2度の<sup>さんか</sup>大戦の惨禍に見舞われた時期でもあった。第II部ではこの時代を扱う。

総力戦<sup>そうりょくせん</sup>となった世界大戦は、国民全般に大きな負担と犠牲<sup>ぎせい</sup>を強いた。このため、第一次世界大戦では交戦中の帝国が革命により崩壊し、社会主義国も誕生した。多くの男性が戦場に動員され女性も社会進出した結果、民衆のあいだで平等な国民としての権利意識が高まり、男女平等の普通選挙などの民主化<sup>みんしゆか</sup>がもたらされた。産業発展の結果として大恐慌が生じると、国民の生活を守る国家の役割が期待され、それは2度目の世界大戦を導いた。2つの大戦を経てヨーロッパの経済的・軍事的優位が大きくゆらぎ、アメリカとソ連をそれぞれの中心とする資本主義と社会主義の両陣営の対立が国際秩序の基軸となる一方、民族自決の原則が確立し、植民地の独立が進んだ。大衆化は国際的にも、国内的にも、大戦と関連しながら進行した。

日本では、日露戦争により、国民の権利意識がある程度高まった。第一次世界大戦では総力戦は経験しなかったが、経済発展と欧米の思潮<sup>しちよう</sup>の流入により、男性普通選挙の導入や生活様式の変化など大衆化に足を踏み入れ、総力をあげた第二次世界大戦での敗北を経て、政治体制を含む本格的な大衆化を迎えた。

1920(大正9)年におこなわれた日本初のメーデーの様子

部でとりあげる時代を概観する記述をしています。



# 経済危機と第二次世界大戦

1

## 世界恐慌の発生と各国の対応

1929年に世界恐慌が発生すると、各国は長期にわたって深刻な不況におちいった。資本主義諸国を襲った巨大な危機に、各国はどのようにして対応したのだろうか。また、世界恐慌は国際秩序にどのような変化をもたらしたのだろうか。



**1 株価暴落で混乱するウォール街** ニューヨークのウォール街は証券取引所や諸金融機関が集中するアメリカの金融センターである。最初に暴落のあった10月24日は「暗黒の木曜日」と呼ばれた(写真は25日)。

**Q** 1929年にアメリカで起こった恐慌は、なぜ世界に拡大していったのだろうか。

時代の理解をうながす写真を掲載しています。

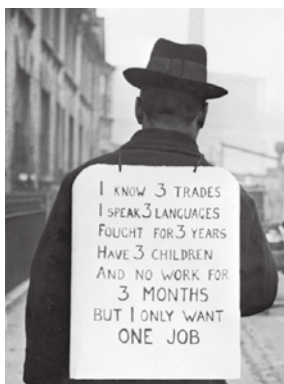
### 世界恐慌の発生

1920年代後半、国際秩序や各国の内政は、だいに安定に向かいつつあるようにみえた。国際協調と軍縮の精神が、世界的に定着しつつあった。

しかし、事態は突然にか変わった。1929年10月、アメリカ合衆国のニューヨーク、ウォール街にあるニューヨーク株式市場で株価が暴落して、恐慌が始まったのである<sup>1</sup>。

恐慌自体は、珍しいことではなかった。自由な経済活動によって成り立っている市場経済では、なかば循環的に、生産と消費のバランスが崩れて、価格が暴落して、長期の不況(恐慌)が発生する。

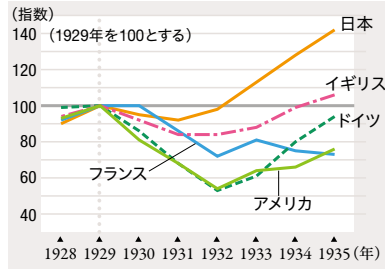
しかし、この時におこった恐慌は、その規模の大きさと、世界への影響の深刻さが未曾有のものであり、「世界恐慌」と呼ばれるようになる。ヴェルサイユ条約で定められたドイツの賠償金の支払いは、アメリカの資金供与によって支えられていたため、ニューヨーク発の恐慌は、ヨーロッパ諸国に波及し、そこから世界中に広がった。世界恐慌がおこったおもな原因としては、まず、アメリカで農産品の価格が低下傾向にあったため、農民の収入が減り、彼らの購買力が低下したことがある。



**2 イギリスの失業者** 「3カ国語を話し、3年間従軍し、3人の子持ち」というように「3」をならべ、「1つの仕事がほしい」と自己宣伝をしている失業者。

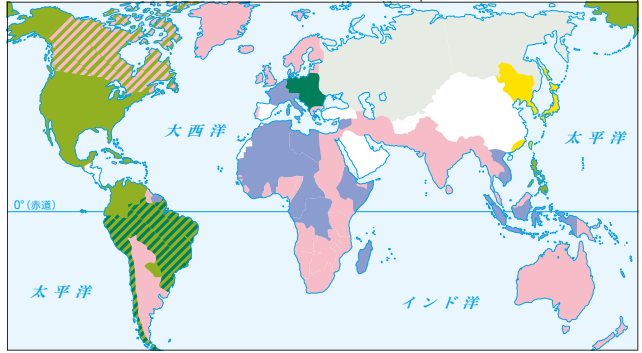


つぎに、大量生産が可能になったことで、商品が過剰に生産され、供給が過多になっていた。さらに、アメリカに世界の資本が過度に集中していたこともあった。



③ 世界恐慌中の各国鉱工業生産指数の推移 (三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』より作成)

■ スターリング(ポンド)=ブロック [イギリス]  
 ■ ドル=ブロック [アメリカ]  
 ■ 金ブロック(フラン=ブロック [フランス]含む)  
 ■ 円ブロック [日本]  
 ■ ドイツの経済圏



④ ブロック経済圏

5 世界恐慌のなかで、各国の景気は長期にわたって低迷し<sup>①</sup>、多くの企業が倒産し、失業者が街にあふれ<sup>②</sup>、社会不安が広がった。1933年のアメリカでは、労働力人口の4人に1人に当たる1283万人が失業者であり、ほかの国の状況も同様に深刻であった。

**金本位制からの離脱と世界経済のブロック化**

世界恐慌が発生した当

時、各国は金本位制<sup>①</sup>をとっていた。この制度のもとでは、金が貨幣価値の基準となり、それぞれの国の貨幣流通量は各国の金保有量に左右される。しかし、1931年にイギリスが、本国通貨のポンドが売られて本国の金が流出することを防ぐために金本位制を離脱すると、日本やアメリカなどもこれに続いた。各国は、世界共通の価値基準である金にもとづく金本位制を離れ、それぞれの国で本国の貨幣の流通量などを管理する、管理通貨制度へと移行した。

イギリスはまた、1932年にカナダのオタワでイギリス連邦の経済会議を開き、特惠関税制度を定めて連邦内部での関税を下げるとともに、連邦域外に対しては関税を上げた。これはスターリング(ポンド)=ブロックと呼ばれ、ブロック経済<sup>④</sup>の先がけとなった。イギリスと同様に広大な海外植民地をもつフランスも、フラン=ブロック<sup>②</sup>をつくった。金本位制からの離脱とブロック経済の形成によって、世界経済の一体性は急速に失われていった。世界経済のブロック化が進むと、ドイツ・イタリア・日本といった、広大な植民地をもたない国々は経済的に不利な立場におかれ、反発を強めた。

**アメリカのニューディール**

世界恐慌の発生時、アメリカの共和党政権は積極的な対策を打ち出すことができなかった。国家の経済への介入は最小限にすべきだという、当時の世界的な考え方が共和党政権を縛っていた。しかし、1933年に大統領に就任した民主党のフランクリン=ローズヴェルト<sup>⑤</sup>は、「ニューディール(新規まき直し)」

1882~1945

① 貨幣を金と兌換(交換)することができる金本位制は、19世紀末までに国際経済の規範となっていた。各国は第一次世界大戦中にこれを一時停止したが、戦後再び金本位制に復帰した。

② フランスは1936年頃までは友好国と金本位制による金ブロックも形成していた。

Q アメリカが恐慌への対応に消極的だったのは、なぜだろうか。



⑤ フランクリン=ローズヴェルト



6 スターリン

内容に即したポスターや風刺画などの資料を豊富に掲載しています。

3 ヨーロッパで革命がおこらなくても、ソ連1国だけで社会主義を建設することはできるといふ考え方。

Q ソ連の計画経済の成果は、諸国にどのような影響を与えたのだろうか。



7 五カ年計画のポスター「2+2」に「労働者の熱気」を加えれば5になると記されている。

4 政府の立てた計画に従って、生産や流通を管理する経済体制のこと。

という合言葉のもと、国家による積極的な介入路線をとった。補助金と引きかえに作付けを制限する農業調整法や、テネシー川流域開発公社(TVA)による大規模公共事業といった政策をつぎつぎと打ち出し、労資関係にも強力に介入をはかった。こうしたニューディール政策は、不況自体を解消したわけではなく、1939年になっても948万人もの人々が失業者だった。それでもローズヴェルトは、恐慌対策を果敢に進めるとともに、ラジオ放送を活用して国民に直接に語りかけることで、絶大な支持を獲得した。彼の発揮したリーダーシップは、社会不安の拡大をおさえ、国民が団結して困難に立ち向かうことを助けた。

ローズヴェルトは外交の転換もおこなった。ラテンアメリカ諸国には「善隣外交」を標榜して、干渉しない姿勢を明確にした。

### ソ連の社会主義

1924年にレーニンが死去したのち、ソ連では、

スターリンが一国社会主義論を提起することで、世界革命路線を重視するトロツキーを退け、指導者の地位を得た。

新経済政策により、経済も徐々に回復した。

国際社会への復帰も進んだ。まず1922年、ともにヴェルサイユ体制から排除されていたドイツとソヴィエト＝ロシアとが接近して、ラパロ条約によって国交を結んだ。これにつづいて、イギリスやフランスも国交を結んでソ連を承認した。1925年には日本もソ連と国交を樹立して、占領していた北樺太(北サハリン)から撤兵した。さらに、1933年にはアメリカもソ連の承認に踏みきった。

しかし、新経済政策による市場経済のもと、貧富の格差が大きくなり、失業者も増え、労働者の不満がつのった。これに対して、スターリンは1927年から28年にかけて、突如として全面的な社会主義の建設へと舵を切った。計画経済体制が導入され、五カ年計画が策定されると、市場経済は急速に縮小した。農民は集団農場に編入され、ごく安価での国家への穀物の供出を義務づけられ、抵抗する者は弾圧された。一方、各地で進む新工場の建設は、労働者や失業者、若者の支持を集めた。

1930年代初頭までに、ソ連の工業生産量は急速に増大した。世界恐慌に苦しむ資本主義諸国は、ソ連の成果に強い衝撃を受けた。計画経済にもとづく社会主義の方が、市場経済にもとづく資本主義よりもすぐれているというソ連の主張は、そのまま受け止められたわけではないが、このあと、ドイツや日本など、計画経済を部分的に取り入れる国も現れた。

## 2

# ファシズムの台頭

世界恐慌<sup>きょうこう</sup>によって各国に社会不安が広まるなかで、ドイツを中心にしてファシズムが台頭した。ファシズムはどのようにして台頭したのだろうか。また、ヨーロッパ各国はファシズムにどのように対応したのだろうか。

### ファシズム体制の広がり

1920年代にイタリアで生まれたファシズム体制は、世界恐慌ののちにドイツにも広まった。

ファシズム体制のもとでは、独裁<sup>どくさい</sup>的な指導者が一党制をしき、言論など社会生活をきびしく統制した。極端<sup>きょくたん</sup>なナショナリズムと反共産主義(反共主義)を掲げ、共産党員や労働運動の活動家ばかりでなく、体制に同調しない者は弾圧された。さらに、ユダヤ人などの民族的少数者を迫害する人種主義政策がとられた。国際関係では、ヴェルサイユ体制<sup>てんぷく</sup>の転覆をめざして、軍備の拡大と領土の拡張を追求し、1930年代の世界における平和と秩序の最大の脅威<sup>きょうい</sup>となった。

### ドイツのナチズム

世界恐慌はドイツ経済を直撃し、1930年のドイツの失業者数は300万人をこえた。ヒトラー<sup>1889~1945</sup>

が率い、攻撃<sup>こうげき</sup>的なナショナリズムを掲げる国民社会主義ドイツ労働者党(ナチ党、ナチス)は、それまではわずかな議席しかもたなかったが、この年の国会選挙で第二党に躍進<sup>やくしん</sup>した。この選挙では共産党も議席をのばしたが、左翼の伸張<sup>しんちょう</sup>を前にして、軍部や企業家などの保守勢力はナチ党に期待をかけた。1932年にナチ党は第一党となり、33年に大統領ヒンデンブルクはヒトラーに組閣<sup>そかく</sup>を命じた。この少しあとに国会議事堂放火事件<sup>ほうかじけん</sup>がおこると、ヒトラーはこの事件を共産主義者の陰謀<sup>いんぼう</sup>であるとして、徹底的に共産党を弾圧した。そして議会が全権委任法<sup>ぜんけんいにんぽう</sup>を成立させて

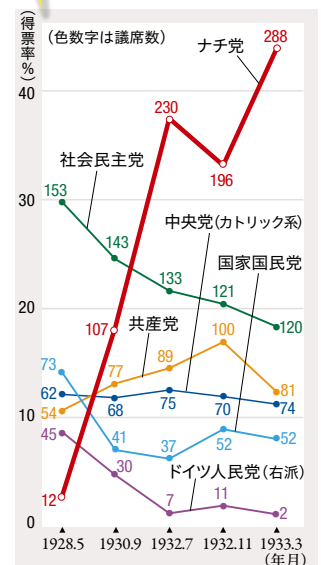
Q ファシズム体制とは、どのような体制だったのだろうか。

Q ヒトラーは、なぜ権力を掌握<sup>しやうあく</sup>することができたのだろうか。

時代理解をうながす統計などのデータを豊富に掲載しています。



1 ナチ党のパレード(1933年)



2 ナチ党の国会議席数と得票率の推移(山本秀行「ナチズムの時代」より作成)





3 ヒトラー(右)とムッソリーニ(左)(1937年、ベルリン)

たことで、<sup>どくさいてき</sup>独裁的な権限を与えられたヒトラーは、ナチ党以外の政党を禁止し、1934年にヒンデンブルクが死去すると、絶対的な指導者である<sup>そうとう</sup>総統(フェーラー)となった。

ナチス政権は、国家による<sup>かいにゆう</sup>経済への介入という、計画経済の要素を取り入れ、とりわけ公共事業を積極的におこなうことで、失業を急速に解消した。一方でユダヤ人に対しては、政治的<sup>はくだつ</sup>権利の剝奪やドイツ人との結婚の禁止など、きびしい差別をおこなった。障害者・同性愛者らも<sup>はくがい</sup>迫害した。外交面では、1933年に<sup>だつたい</sup>国際連盟からの脱退を表明し、35年にはヴェルサイユ条約の軍備制限条項を破棄し、<sup>ひぶそう</sup>再軍備宣言<sup>しんちゆう</sup>をおこなった。さらに1936年にはラインラントの<sup>-p.112</sup>非武装地帯に進駐し、<sup>-p.116</sup>ロカルノ条約を破棄した。大半のドイツ人は、ナチス政権とヒトラーに、国民の団結の回復と、強力なドイツの復活をみて熱狂した。

このようなドイツにおけるファシズム体制を、とくにナチズムと呼ぶ。

Q 1930年代後半までに、東ヨーロッパ・バルカン諸国の多くで独裁的な政権が成立したのは、なぜだろうか。

### 1930年代のヨーロッパ

<sup>きやうこう</sup>世界恐慌によって混乱と分裂が生じていたヨーロッパ情勢は、ドイツの<sup>たいとう</sup>台頭によって、いっそう混迷を深めた。ムッソリーニの率いるファシズム国家であるイタリアは、独自に<sup>けん</sup>勢力圏の拡大をはかり、1935年には<sup>しんこう</sup>エチオピアに侵攻し、翌年<sup>へい</sup>に併合した。国際連盟は<sup>-p.89</sup>経済制裁を宣言したものの、イギリスやフランスはイタリアを刺激することを恐れ、<sup>そち</sup>実質的な措置をとらなかった。それでも<sup>よろん</sup>国際世論が反発するなかで、イタリアはドイツに接近した3。

1 社会は資本家と労働者など、敵対する階級間にわかれており、そうした階級同士の闘争によって歴史は展開するという考え方。

4 1930年代のソ連 運河建設にかり出される<sup>しゆうじん</sup>囚人(1932年)。スターリンのもと、ソ連では大規模な建設プロジェクトが数多く進行したが、そのための労働力としては囚人(多くは無実の<sup>たいい</sup>罪で逮捕された)が酷使された。

東ヨーロッパ・バルカン諸国は、大きな社会格差や、少数民族問題などの対立要因を国内に抱えていた。そのため議会政治が安定しづらく、すでに1920年代半ば以降、いくつかの国ではクーデタがおこっていた。1930年代後半までにこの傾向はいっそう強まり、議会制民主主義が定着したのはチェコスロヴァキアだけとなり、多くは独裁的な政権となっていた。



1930年代のソ連は、<sup>すうはい</sup>指導者崇拜・一党制・言論統制など、多くの点でファシズム体制と類似していた4。しかし、<sup>とうそう</sup>階級闘争1を基本理念とするソ連は、<sup>きよくたん</sup>極端なナショナリズムを基本理念とするファシズム体制と<sup>こんぽん</sup>根本のところでは対立した。反共主義を掲げるナチス政権に対して、ソ連は批判的な姿勢を明確に打ち出して、

国際的に「反ファシズムの砦」とみられるようになり、1934年には国際連盟に加盟して、常任理事国となった。一方、国内では政権批判を許さないきびしい監視体制をしき、1930年代後半には100万人以上の無実の人々がドイツや日本のスパイとされ、銃殺や流刑に処された。

5 フランスでも反ファシズムの気運が盛り上がり、1936年には社会党を中心とする人民戦線内閣が成立した。人民戦線内閣は労働時間の短縮など、労働者の利益を重視する政策をとったが、経済危機を克服できず、翌年に退陣した。

スペインでも1936年に、人民戦線政府が成立したが、軍部や地主などの保守勢力が反発した。こうしたなか、保守勢力を率いる軍人のフランコが反乱をおこして内戦が始まった(スペイン内戦) 5。ドイツとイタリアがフランコを軍事支援した一方で、イギリスとフランスはドイツとイタリアを刺激することを恐れ、不干渉の立場をとった。主要な国で人民戦線政府を支援したのはソ連のみであったが、ファシズム勢力の拡大を阻止しようとする人々は、世界各地からスペインに渡り、人民戦線政府側で義勇兵となった。しかし、1939年に内戦は反乱側の勝利に終わり、フランコの独裁体制が成立した。

### ドイツの拡張政策

ドイツは再軍備をおこなうだけではなく、拡張主義的な対外政策も押し進めた 6。まず、1938年にオーストリアを併合し、ついで、「民族自決」を楯にチェコスロヴァキア領内のドイツ人居住地域ズデーテンを併合することを求めた。この問題を解決するためにドイツのミュンヘンで開かれた首脳会談(ミュンヘン会談) 6で、ドイツとの戦争を回避したいイギリスのネヴィル=チェンバレン首相は、フランスとともにヒトラーの要求を認めた(宥和

25 政策)。しかし、ヒトラーはズデーテン併合だけでは満足せず、1939年にはスロヴァキアを独立させてドイツの支配下におき、チェコ(ベーマン・メーレン)を保護領とした。こうしてチェコスロヴァキアは消滅した。

30 ミュンヘン会談にまねかれなかったソ連は、イギリス・フランスへの不信感を強めた。1939年8月、それまで敵対しあっていたソ連とドイツは突然に独ソ不可侵条約を締結し、世界中に衝撃を与えた。



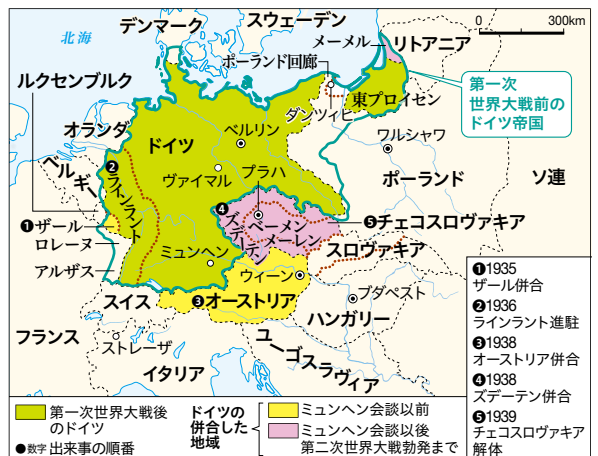
5 スペイン内戦 人民戦線政府側のポスター。「血の戦線で、労働の戦線で。人間性のための戦い」と記されている。

2 人民戦線内閣は、反ファシズムを目標に、広範な左派勢力が協力体制を築いた。

Q フランス・スペインの人民戦線は、なぜ失敗したのだろうか。

3 イギリス・フランス・ドイツ・イタリアの首脳による会談で、チェコスロヴァキアの代表はまねかれなかった。

Q なぜ、ソ連とドイツは不可侵条約を結んだのだろうか。



6 ドイツの領土拡大

本文の理解を深めるため、適度に側注を付しています。

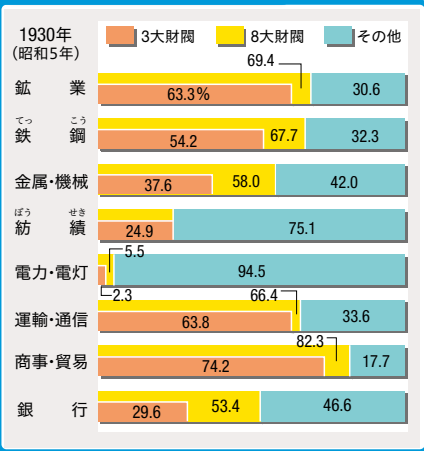


# 日本の恐慌と満洲事変

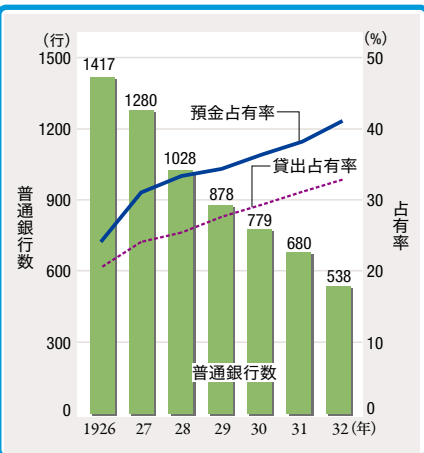
日本は2つの恐慌に襲われ、陸軍軍人が満洲事変をおこし、五・一五事件によって政党内閣が断絶した。こうした激動はなぜもたらされ、日本、そして国際社会にどのような影響を与えたのだろうか。

グラフを読みとり、時代の理解をうながすQを設けています。

Q 112のグラフから、どのようなことが読み取れるだろうか。



1 業種別払込資本金の財閥への集中 3大財閥は三井・三菱・住友で、8大財閥はこれに安田・浅野・大倉・古河・川崎を加えたもの。(柴垣和夫「三井・三菱の百年」より作成)



2 銀行数と5大銀行の占有率の変化 三井・三菱・住友・安田・第一が5大銀行である。(三和良一・原朗編「近現代日本経済史要覧 補訂版」より作成)

## 政党内閣と金融恐慌

普通選挙法制定によって、日本でもイギリスなどを模範とした二大政党による政党政治(「憲政の常道」)の確立が期待された。1926(昭和元年)年1月、加藤高明首相が病死し、若槻礼次郎が憲政党内閣を引き継いだ(第1次若槻内閣)。憲政党内閣の外務大臣幣原重郎は中国の関税自主権回復を支持するなど、協調外交を進めた(幣原外交)。しかし戦後恐慌からの回復は遅く、不良債権(震災手形)の処理が進まないなか、三井・三菱・住友などの大財閥が拡大して政界・財界への影響力を強めた。

1927(昭和2)年3月、衆議院での大蔵大臣の失言で銀行の危機的な経営状況が明らかになり、全国の銀行に預金者が殺到して銀行は営業を停止する事態となった(金融恐慌)。若槻内閣は主要銀行の1つである台湾銀行救済の緊急勅令を枢密院に否決され、その責任をとって退陣し、立憲政友会の田中義一が内閣を組織した。田中内閣はモラトリアム(支払猶予令)を発し、日本銀行から巨額の救済融資をおこなって恐慌をしずめたものの、中小銀行の多くが大銀行に整理、吸収された112。

1928(昭和3)年2月、田中内閣は積極財政を掲げて普通選挙法による初の総選挙をおこなった。与党立憲政友会は衆議院第一党となったものの過半数には届かなかった。この選挙では無産政党各派から8人が当選したが、その一派である労働農民党の背後には非合法である日本共産党の活動がみられた。そのため、田中内閣は共産党の弾圧に乗り出すとともに、緊急勅令によって6月に治安維持法を改正した。これにより、共産主義に同情的であると判断された者にも適用範囲が広げられ、最高刑は死刑となった。

## 協調外交と世界恐慌

田中内閣は、1928(昭和3)年の不戦条約に参加するなど協調外交を継続した。一方中国では、北伐軍から山東省済南の居留民を保護する

めいもく さんとうしゅつぺい  
 名目で、3次にわたる山東出兵をおこなった。1928(昭和3)年の第2  
 次山東出兵の際、日本軍と北伐軍の衝突がおきたものの、翌年には話  
 し合いで解決した。

しかし、こうした田中内閣の外交方針を軟弱とみた関東軍は、1928  
 (昭和3)年6月、田中首相に近い満洲の軍事指導者張作霖を暗殺した<sup>4</sup>。田中首相は、協調外交の方針に則り、関係者の嚴重処分と真相  
 公表を昭和天皇に約束したが、それでは日本の満洲権益が守れないと  
 考えた一部の閣僚の反対で真相は非公表となり、関係者の処分も軽微  
 となった。昭和天皇は田中首相に強い不満を示し、田中首相は違約の責  
 任をとって1929(昭和4)年7月に退陣した。

かわって立憲民政党を与党とする浜口雄幸内閣が成立した。浜口内閣  
 は、経済の立直しのため、金本位制への復帰(金解禁)<sup>①</sup>を1930(昭和5)  
 年1月に実施した。円の価値が上がるため輸出品の価格が上がり、輸入  
 品の価格が下がるので、多くの輸出企業には不利になるが、非効率な企  
 業が整理されることで政府の融資や補助金が減って減税が実現し、経済  
 の活性化をはかれるとのねらいがあった。しかし、折からの世界恐慌で  
 輸出は大幅に減少し、都市には失業者があふれた。米の販売不振や生糸  
 など絹製品の輸出減少で農家経営も苦しくなり、日本全体が深刻な不  
 況となった(昭和恐慌)<sup>⑤</sup>。これに対し、緊縮財政をとる浜口内閣  
 は十分な対策をとれなかった。

浜口内閣は緊縮財政と協調外交の立場から、1930(昭和5)年4月にロ  
 ンドン海軍軍備制限条約を締結したが、補助艦保有トン数の対英米比が、  
 海軍が国防上必要と主張していた7割よりやや低い数値となった。この  
 ため海軍内の一部勢力や右翼の一部、倒閣をねらう立憲政友会の一部は、  
 天皇の統帥権を侵犯したとして浜口内閣を批判した(統帥権干犯問題)。  
 天皇の統帥権を侵犯したとして浜口内閣を批判した(統帥権干犯問題)。



**4 張作霖爆殺事件** 張作霖の専用列車が爆破された。その爆発の激しさがうかがえる。(山形新聞社蔵)

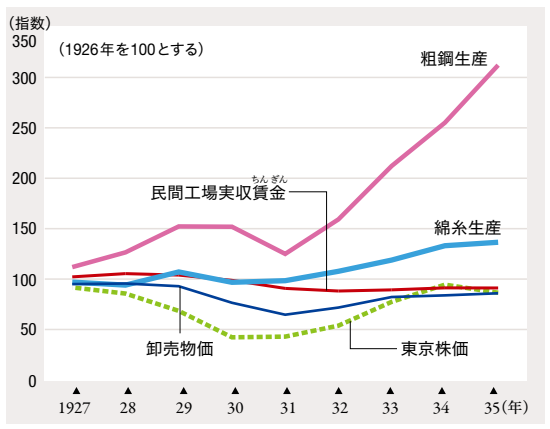
**3 改正治安維持法**  
 第一条 国体ヲ変革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者  
 又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ従事シタル者ハ、死  
 刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ処シ……私有財  
 産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結  
 社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ為ニスル行為ヲ為シ  
 タル者ハ、十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ処ス。  
 (官報)

**Q** 治安維持法は、改正前  
 (→p.131)と改正後で、  
 どの部分がどのようにかわ  
 ったのだろうか。

**①** 第一次世界大戦の影響により、  
 1917年以来、金輸出禁止が続い  
 ていた。

史料を比較し、考察させる  
**Q** をつけています。

**5 昭和恐慌の諸経済指標**(三和良  
 一・原朗編「近現代日本経済史要覧 補  
 訂版」などより作成)





**Q** ポスターの5人はそれぞれこの人を表しているのだろうか。5人が腕を組んでいるのは、どのような意味なのだろうか。

**6** 満洲国建国のポスター(南部町 祐生会館の館蔵)

**2** 1933(昭和8)年5月に日中両軍が停戦協定を結んで事変は事実上終結したが(→p.143)、中国政府が満洲国を正式承認することはなかった。

**7** 満洲事変関係図 満洲とは奉天・吉林・黒龍江の3省をいう。成立した「満洲国」は熱河・興安を加えた5省で、新京(長春)を首都とした。中国国民政府はこの地域を「東北」と呼んだ。



### 満洲事変と 政党内閣の終焉

1931(昭和6)年3月、日本では政党政治への不信から陸軍の青年将校たちがクーデタを計画したが未遂に終わった(三月事件)。しかし、中国で高まる権益回収の動きを前に、このままでは満洲権益が守れないと考えた関東軍の石原莞爾らは、同年9月、謀略によって南満洲鉄道の線路を爆破し(柳条湖事件)、これをきっかけに関東軍が満洲全域を軍事占領した(満洲事変)。中国は国際連盟に提訴し、アメリカは日本の行動の否認を表明した。10月には、日本で再び陸軍青年将校によるクーデタ未遂事件がおきた(十月事件)。第2次若槻内閣は陸軍の動きや満洲事変、恐慌への対応をめぐり意見が分裂して退陣し、12月に立憲政友会の犬養毅内閣が成立した。

日本の陸軍は、1932(昭和7)年3月に清の最後の皇帝溥儀を執政として現地の有力者たちに満洲国を建国させた**67**。満洲国は、表向きは現地の有力者たちが「五族協和」を掲げ自主的に樹立した独立国であったが、実際には日本の傀儡国家であった。

1932(昭和7)年5月15日、政党内閣に批判的な海軍の青年将校たちが、満洲国承認に消極的な犬養首相を暗殺した(五・一五事件)。政権争いに明け暮れ、政治課題に十分対処できない政党政治への不満が言論界や軍部、官僚のあいだで高まっていた。こうしたなかで、事件後、元老西園寺公望は政党を反省させるため、海軍穏健派の斎藤実を首相とし、政党を含む各界から閣僚を集めて組閣させた。斎藤内閣は9月の日満議定書調印によって満洲国を承認した**2**。

この頃、国際連盟は、中国の提訴に対しリットンを団長とす



る調査団を満洲と日本に派遣した。調査団は、日本の満洲における權益維持は認めるが、満洲国は現地の住民が自主的につくった国家ではないため認められないとする報告書を国際連盟に提出した。報告書にもとづく日本への勸告案は1933(昭和8)年2月の国際連盟総会でほぼ全会一致で採択され、翌月、日本は国際連盟からの脱退を通告した(1935<昭和10>年発効)。日本と国交を断絶した国はなかったものの、日本の国際連盟脱退は国際協調の動きに水を差すことになった。一方、日本の世論の大勢は脱退に賛成だった。また、国内政治において陸軍の発言力が高まりはじめた。

### 恐慌からの回復

斎藤内閣とつぎの岡田啓介  
1868-1952  
たがはして戦後よ  
内閣でも大蔵大臣をつとめた高橋是清  
→p.130

は、恐慌脱出のため政府の政策によって需要をつくり出した。高橋は金輸出再禁止によっておきた円安を利用して輸出を促進し、輸入にあたっての関税

を引き上げて工業原料の輸入をおさえた。その一方、朝鮮や満洲国における重化学工業の振興をはかり、軍備拡大や農村向けの公共事業(土木事業)をおこなった。こうした政策によって、鉱工業生産は1933(昭和8)年には恐慌前の生産水準を回復し、日本は列強のなかでもっとも早く世界恐慌から脱出した。しかし、景気回復後、大蔵大臣の高橋は軍備拡大に消極的となり、1936(昭和11)年にワシントン・ロンドン両海軍軍備制限条約が失効するのを日本の危機ととらえて軍備拡大を主張する右翼や軍部と対立することになった。

政府は農山漁村経済更生運動も推進したが、農村経済の停滞は続いた。農村の人口過剰が問題とされ、その解決のために満洲国への農業移民が奨励されるようになった。



8 国際連盟の対日勸告案可決を報じる新聞記事 記事の写真で一番上の人物は日本全権の松岡洋右。(『東京朝日新聞』1933年2月25日)

Q 記事の見出しの文言から、当時の日本の世論の状況を読みとってみよう。

9 新聞社などの共同宣言

満洲の政治的安定は、極東の平和を維持する絶対的条件である。……東洋平和の保全を自己の崇高なる使命と信じ、且つそこに最大の利害を有する日本が、国民を挙げて満洲国を支援するの決意をなしたことは、まことに理の当然といわねばならない。……苟くも満洲国の厳然たる存立を危うするが如き解決案は、たとひ如何なる事情、如何なる背景に於いて提起される、を問はず、断じて受諾すべきものに非ざることを、日本言論機関の名に於いて茲に明確に声明するものである。

昭和七年十二月十九日

日本電報通信社	報知新聞社	東京日日新聞社
東京朝日新聞社	中外商業新報社	大阪毎日新聞社
大阪朝日新聞社	読売新聞社	国民新聞社
時事新報社	新聞連合社	外百廿社

(『東京朝日新聞』一九三三年十二月十九日)

3 その過程で日産(鮎川義介)、日室(野口 遵)、森(森 熹 昶)などの新興財閥が出現した。

4 農村の「自力更生」を掲げ、肥料や農機具の共同購入による経費削減や、農産物の共同販売による収益増加をめざし、農家の産業組合への組織化を奨励する政策が進められた。

5 日本の移民は、アメリカ、南米(ブラジル)、東南アジア向けが多かったが、アメリカは1920年代前半から、ブラジルは1930年代中頃から受入れを制限するようになっていた(→p.123)。

# グローバル化する世界

1

## 冷戦の終結と国際情勢

Q 1980年代前半のソ連は、どのような状態にあったのだろうか。

① 彼らはムジャーヒディーン（イスラームを防衛する聖戦〈ジハード〉の戦士）と自称し、アメリカやパキスタン、中国の支援も受けてソ連軍と戦った。

時代状況の変化を読みとりやすい、流れを重視した記述をこころがけています。

① チェルノブイリ原子力発電所事故 この事故による被災者は数百万人にのぼり、被害は周辺諸国にも広がった。



ソ連の社会主義は、1980年代までに<sup>ていつない</sup>停滞した。事態を打開するため、新指導者ゴルバチョフは、東西対立を終わらせることを決意した。その結果、国際情勢はどのように変化したのだろうか。また、この頃におこった<sup>わんがん</sup>湾岸戦争に、国際社会はどのように対応したのだろうか。

### ソ連の行き詰まり

1979年、ソ連は南方の隣国であるアフガニスタンの社会主義政権を支えるために、<sup>かい</sup>軍事介入をおこなった。当時、アフガニスタンの社会主義政権は、<sup>ないふん</sup>内紛のために不安定であり、イスラーム主義ゲリラ<sup>①</sup>の攻撃も受けていた。しかし、<sup>→p.188</sup>山岳地帯に立てこもるゲリラに対して、ソ連軍は有効に戦うことができなかった。あたかもベトナム戦争におけるアメリカ軍の<sup>てつ</sup>轍を踏むかのように、ソ連のアフガニスタン介入は<sup>どろぬまか</sup>泥沼化した。

西側諸国の<sup>よろん</sup>世論はソ連を強く非難し、アメリカ合衆国と日本を含む西側諸国の一部と中国は、1980年のモスクワ=オリンピックをボイコットした。緊張緩和<sup>かんわ</sup>（デタント）は終わりを告げ、東西関係は再び冷え込んだ。

この年の選挙で当選したアメリカ大統領レーガンは、人工衛星<sup>えいせい</sup>を使ってソ連の核<sup>かく</sup>ミサイル<sup>げいしき</sup>を迎撃する、戦略防衛構想を打ち出した。アメリカが最新技術を用いた軍事構想を積極的に展開したのに対して、ソ連では軍事のハイテクノロジー化が遅れていた。また、ソ連指導部はブレジネフ<sup>→p.208</sup>

が1982年に死去したのち、後任の書記長が高齢で、2人続けていづれも1年余りで死去していた。ソ連指導部は若手を登用する必要性を認識し、1985年に54歳のゴルバチョフ<sup>1931~</sup>を新書記長に選出した。

この時、ソ連経済はきびしい状態にあった。経済成長が<sup>ていつない</sup>停滞していたにもかかわらず、アメリカとの<sup>ぐんびかくちよう</sup>軍備拡張競争のために、国内総生産(GDP)の4分の1程度を軍事支出に振り向けていた。重要な<sup>がい かくとく</sup>外貨獲得の手段であった原油も、この頃に価格の低下が始まった。そして1986年には、チェルノブイリ原子力発電所（現、ウクライナ）で爆発事故がおこった<sup>①</sup>。これは管理体制の不備などによって発生した人



災であり、ソ連の沈滞<sup>ちんたい</sup>を象徴するできごとであった。

## 新思考外交

ゴルバチョフは、アメリカとの軍備拡張競争の負担を軽減することをめざし、「新思考外交」を掲げて、アメリカとの抜本的な関係改善に乗り出した。1985年以降、ゴルバチョフはレーガンと会談を重ね、87年にワシントンで中距離核戦力(INF)<sup>せんぱい</sup>全廃条約<sup>ちやういん</sup>の調印にこぎ着けた。翌年には、アフガニスタンからのソ連軍の撤退<sup>てったい</sup>も決めた。

さらにゴルバチョフは、東ヨーロッパ支配を終わらせ、その負担を減らすことも決意した。東ヨーロッパ諸国はそれぞれが望む道を進めばよいという姿勢をゴルバチョフが表明すると、各国では改革運動が始まった。当初は各国の共産主義政党の改革派が主導権をとったが、やがて体制の転換<sup>てんかん</sup>を求める国民の声が圧倒的となり、1989年には共産主義政党の単一<sup>たんいつ</sup>党支配体制の放棄<sup>ほうき</sup>と、社会主義から資本主義への転換が、急速に進んだ(東欧革命)<sup>3</sup>。ポーランドでは自主管理労働組合「連帯」<sup>れんたい</sup>が選挙で躍進<sup>やくしん</sup>して、東ヨーロッパ初の非共産党系政権を誕生させた<sup>4</sup>。東ドイツでは、東西を隔てていた「ベルリンの壁」<sup>かべ</sup>が民衆の手によって破壊された。チェコスロヴァキアではドプチェクが復権<sup>ふくけん</sup>し、ルーマニアでは改革に抵抗したチャウシェスク大統領が処刑された。同年末、ゴルバチョフは、レーガンの後継者であるブッシュ(41代)大統領<sup>1918~89</sup>と地中海のマルタ島沖で会談し、冷戦<sup>れいせん</sup>の終結を宣言した。<sup>1921~2018</sup>

ゴルバチョフは当初、安全保障上の理由から、東ドイツが西ドイツと統一されることを望んでいなかった。イギリスとフランスも、強力な統一ドイツの出現を恐れていた。こうしたなか、ブッシュ大統領<sup>1918~89</sup>と西ドイツのコール首相<sup>1930~2017</sup>は粘り強く交渉を進め、1990年10月に東西ドイツが統一された。

## イラン＝イスラーム革命

資本主義対社会主義という冷戦の枠組み<sup>わくぐみ</sup>を大きくこえるような動きは、すでにゴルバチョフの登場以前から、国際情勢に現れはじめていた。とくに1979年のイランにおける革命は、イスラーム主義の台頭という新しい現象を、世界中に示した。

1960年代、イランでは国王パフレイヴィー2世によって、欧米化・近代化政策が進められたが、独裁的<sup>どくさいてき</sup>



2 中距離核戦力全廃条約の調印  
ゴルバチョフ(左)とレーガン(右)。

2 翌年「連帯」の指導者ワレサは大統領になった。

当時の社会状況への考察を深める、時代を象徴した写真を掲載しています。

3 東欧革命 ルーマニア共産党本部前の広場を占拠する市民と市民側について国軍の戦車。手前の人物は、社会主義を示すマークを切り抜いた国旗を掲げている。





[著作者] 岸本 美緒 お茶の水女子大学名誉教授  
鈴木 淳 東京大学教授

池田 嘉郎 東京大学准教授

老川 慶喜 立教大学名誉教授

勝田 俊輔 東京大学教授

小松 久男 東京大学名誉教授

島田 竜登 東京大学准教授

古川 隆久 日本大学教授

牧原 成征 東京大学准教授

小豆畑和之 東京都立西高等学校教諭

中家 健 東京都立小石川中等教育学校教諭

野崎 雅秀 東京大学教育学部附属中等教育学校教諭

松本 英治 開成中学校・高等学校教諭

株式会社 山川出版社

(所属は2021年3月末現在)

B5判 254頁

写真 283点

地図 73点

グラフ・図表 112点

文字資料 55点

2次元コード 19点

81 山川 歴総707

## 歴史総合 近代から現代へ ダイジェスト版

著作者 岸本美緒 鈴木淳(ほか12名)

発行者 株式会社 山川出版社 代表者 野澤武史  
東京都千代田区内神田1-13-13

印刷者 協和オフセット印刷 株式会社 代表者 稲垣健一  
東京都港区浜松町1-3-1

発行所 株式会社 山川出版社  
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-13  
電話 03(3293)8131(代)

小社ホームページでもご案内いたしております。  
歴史総合教科書の紹介動画もございますので、ぜひご覧ください。



山川出版社

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-13  
TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469

<https://www.yamakawa.co.jp/>